阪南市埋蔵文化財報告 48

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXⅧ

２０１１年

阪南市教育委員会

はしがき

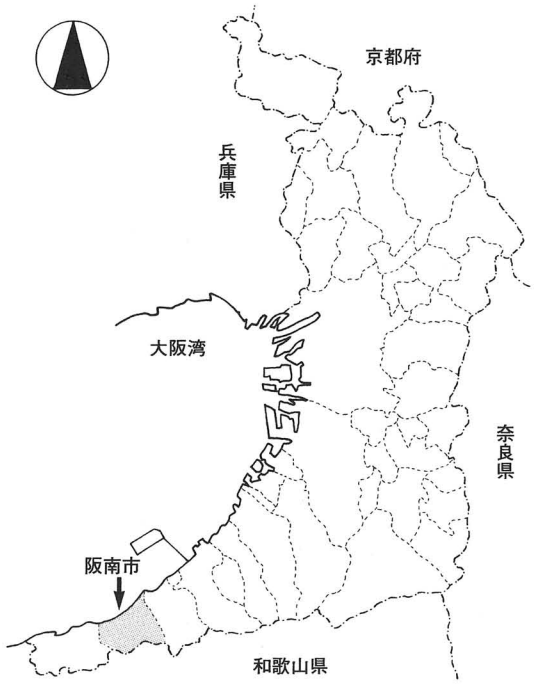
阪南市は北に大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる大阪府下でも自然豊かな立地に所在しています。

高度成長期に始まった開発の波が自然破壊と共に、多くの遺跡を破壊していく中で、本市教育委員会では昭和60年度より国庫補助を受けて発掘調査を続けてまいりました。その結果、これまでに貴重な資料を得ることができ、地道な作業の積み重ねで、地域に新しい歴史の発見がありました。

本書は平成22年度の国庫補助事業として実施した発掘調査概要報告書です。今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、ご協力いただきました土地所有者並びに関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月31日
阪南市教育委員会



第１図　阪南市位置図

例　　言

1．本書は、阪南市教育委員会が阪南市内において実施した、阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。

2．調査は、平成22年度に国庫補助事業として計画実施した。

3．現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野　仁、山千代明日香(嘱託)を担当とし、平成22年１月から12月にかけて行った。

4．本書内で示した標高はＴ．Ｐ．(東京湾平均海面)を基準としている。

5．発掘調査にあたっては土地所有者等、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。

6．本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

7．本書の執筆、編集は上記の調査担当者が行った。

8．発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。

根無吉隆、南　竹千代、杉田正千代、黒川　喬、和田旬世、井上祥子、井上　進、島田万帆

目　　次

第１章　調査の成果

第１節　内畑遺跡	０９－１区	1
第２節　下出北遺跡	０９－１区	3
	１０－１区	4
第３節　神光寺(蓮池)遺跡	１０－１区	5
	１０－２区	7
第４節　向出遺跡	１０－１区	9
第５節　高田南遺跡	０９－４区	11
	１０－１区	12
	１０－２区	
第６節　自然田遺跡	０９－２区	14
	１０－１区	15
	１０－２区	
第７節　鳥取南遺跡	１０－１区	17
	１０－２区	18
第８節　箱作今池遺跡	１０－１区	19
	１０－２区	20
第９節　尾崎範囲外	０９－１区	21
第10節　鳥取中範囲外	１０－１区	22
報告書抄録		23

1 皿田池古墳
2 平野寺(長楽寺)跡
5 玉田山古墳群
6 玉田山遺跡
7 寺田山遺跡
8 桑畑石切場跡群
9 石田山遺跡
10 (重文)波太神社本殿・末社三神社
(府指)有文 波太神社三十六歌仙扁額
12 黒田北遺跡
13 亀川遺跡
14 三本松東遺跡
15 水附遺跡
19 貝掛遺跡
20 神光寺(蓮池)遺跡
21 田山西遺跡
22 田山遺跡
23 (府指)有文 加茂神社本殿
24 箱作今池遺跡
25 茶屋遺跡
26 四郎太郎遺跡
27 山中渓石切場跡群
30 師道谷遺跡
31 箱作細谷石切場跡
32 玉田山須恵器窯跡
34 井関遺跡
35 自然田遺跡
36 福島遺跡
37 飯ノ峯畑遺跡
38 金剛寺遺跡
39 馬川遺跡
40 内畑遺跡
41 下出北遺跡
42 室堂遺跡
43 向出遺跡
44 久保田遺跡
45 高田西遺跡
46 高田南遺跡
47 向山遺跡
48 小口谷遺跡
49 西畑遺跡
50 正方寺遺跡
51 黒田南遺跡
52 黒田西遺跡
53 鳥取遺跡
54 鳥取北遺跡
55 鳥取南遺跡
56 西鳥取遺跡
57 戎遺跡
58 田山東遺跡
59 箱作南遺跡
60 山中渓遺跡
61 馬川北遺跡
62 和泉鳥取遺跡
63 箱作西遺跡
65 尾崎海岸遺跡
66 下出遺跡
67 黒田遺跡
68 尾崎清水遺跡
69 波有手遺跡
70 高田遺跡
71 道弘寺跡
73 箱作谷川石切場跡
74 亀川西遺跡
75 亀川北遺跡

第2図　阪南市埋蔵文化財分布図

第１章　調査の成果

第１節　内畑遺跡

内畑遺跡は平成元(1989)年度の民間の開発工事に先立つ試掘調査の89-1区によって発見された。その調査では遺物包含層からサヌカイト、須恵器、土師質土器、陶器、磁器等が出土した。その後行った94-1区の調査では、溝や土坑等が検出されると共に、多量の近世瓦、製糖に用いられた土師質瓦漏をはじめ、膨大な量の陶磁器が出土し、擂鉢や炮烙等の日常生活雑器も多く含まれていた。遺跡の中央部には尾崎を起点に和歌山へ抜ける井関越街道が縦断していることから、当遺跡が江戸時代に下出村の中心地であったことが伺える。

０９－１区（第３～６図）

調査区は内畑遺跡の中央部に位置し、先述の94-1区に近接している。

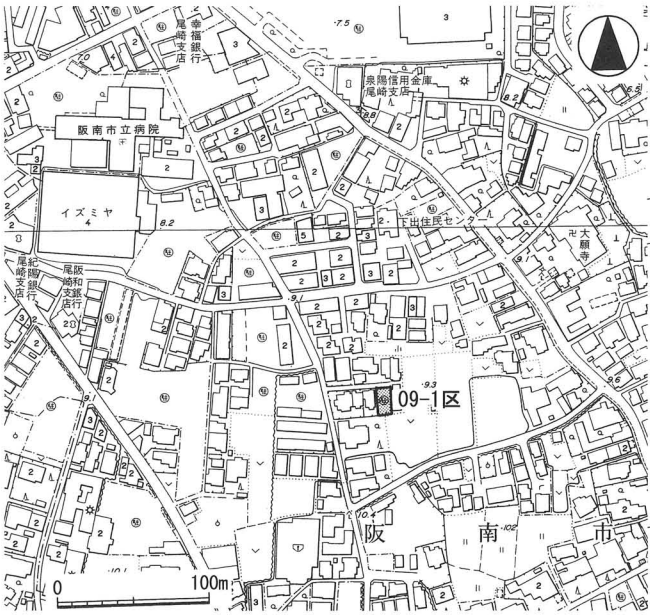
調査は調査区の南部に3.0m×1.5mの1トレンチ、北部に2.0m×1.4mの2トレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層黒色粘土と地山土が混じる暗灰茶色砂質土、第4層明黄橙色粘土の地山である。地山は盛土上面から0.60mの深さで検出した。

遺物は第3層から土師質土器、白磁、近世瓦が出土した。

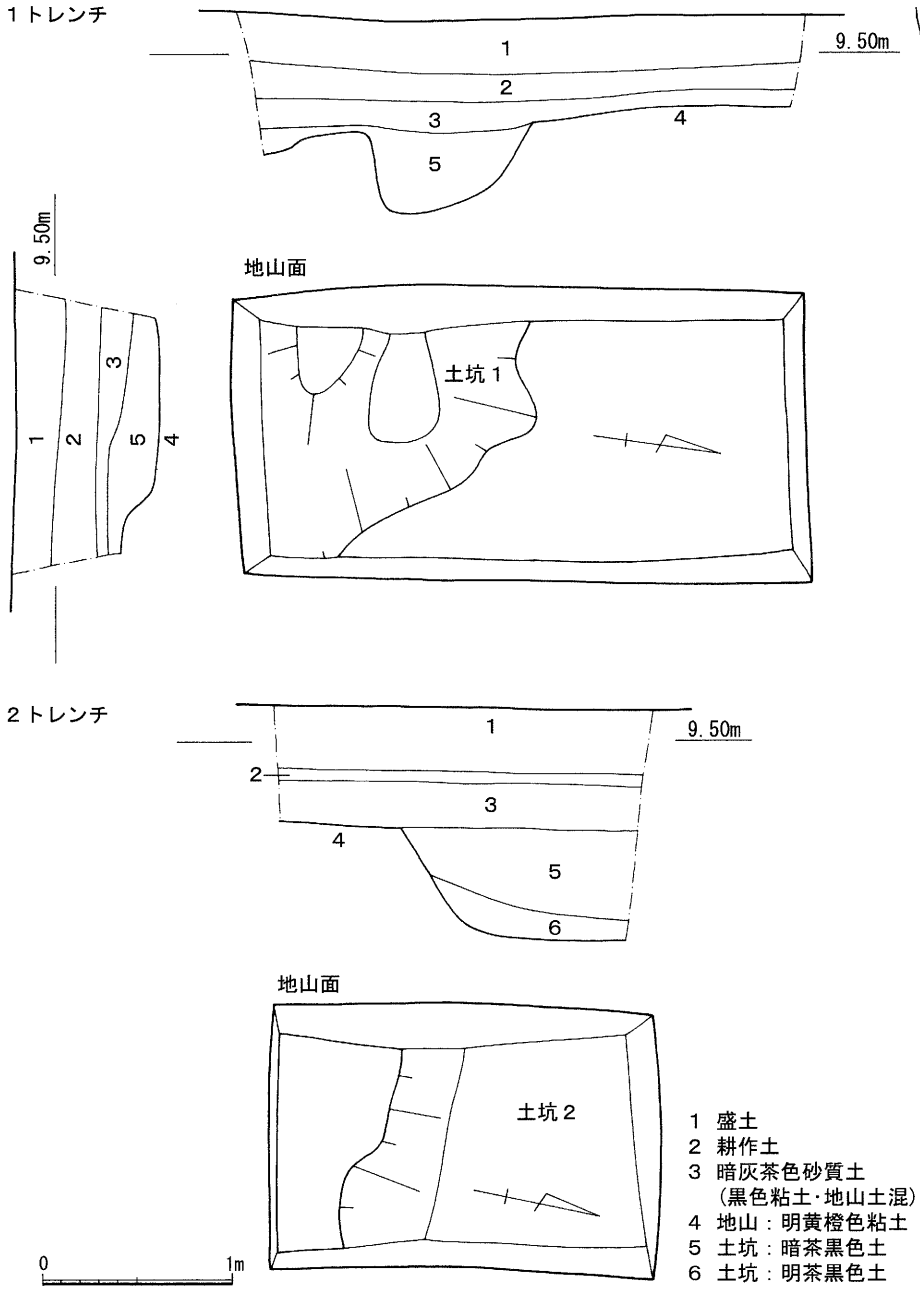
遺構は各トレンチの地山面で土坑を検出した。

1トレンチで検出した土坑1は、東西1.23m以上、南北1.45m以上、深さ0.45mを測る。埋土は暗茶黒色土で、遺物は出土しなかった。

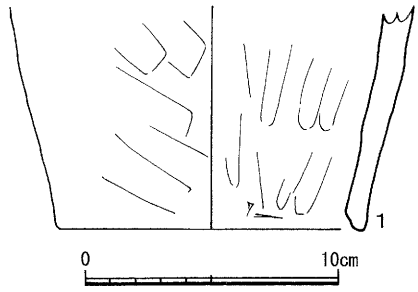


第３図　内畑遺跡調査区位置図

第４図　内畑遺跡09-1区　トレンチ位置図



第５図　内畑遺跡09-1区　トレンチ平面図・断面図



第６図　内畑遺跡09-1区
出土遺物

2トレンチで検出した土坑2は東西1.12m以上、南北1.58m以上、深さ0.60mを測る。埋土は上層が暗茶黒色土、下層が明茶黒色土である。遺物は上層の暗茶黒色土から土師器、土師質土器が出土した。1は土師器の甑である。

第２節　下出北遺跡

下出北遺跡は、阪南市の東端を流れる男里川の左岸に位置し、平成7(1995)年度に行った民間の開発工事に伴う試掘調査の95-1区で発見された遺跡である。その調査では、弥生時代の土坑や弥生土器、須恵器、土師器を含む南北方向の流路等が検出されている。

０９－１区（第７～９図）

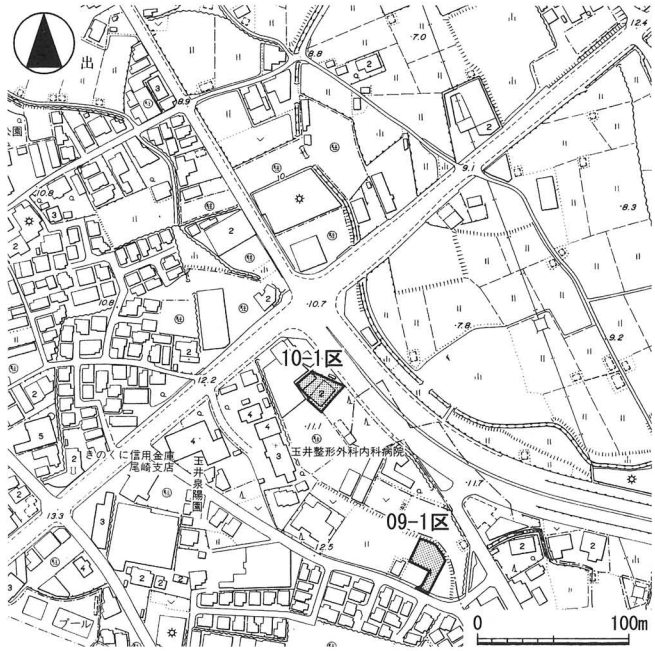
調査区は下出北遺跡の南部に位置し、男里川から西約300ｍに位置する。過去に調査を行った03-1区、06-2区、08-1区に隣接している。06-2区では中世期の土坑や古代末期から近世期の遺物を含む落ち込み等が検出され、遺構は伴わないものの遺物包含層から縄文時代後期前葉から晩期中葉の土器が出土している点が特筆される。

調査は調査区の東端部に3.00ｍ×1.35ｍのトレンチを設定して行った。

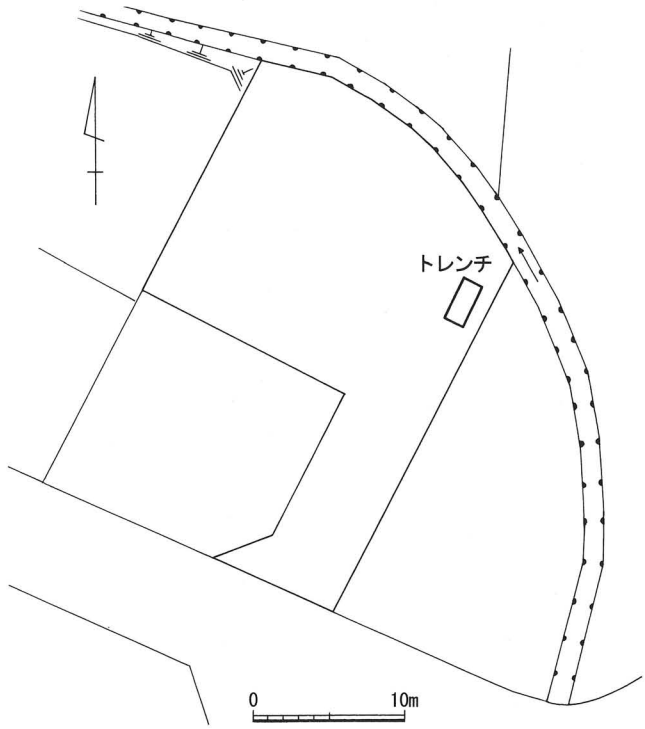
基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡黄灰色土、第4層明茶色土、第5層暗茶色礫混土の地山である。地山は盛土上面から1.15ｍの深さで検出した。

遺物は第3層から土師器、黒色土器、土師質土器、第4層から土師器、須恵器、土師質土器が出土したが、これらの遺物や、当調査区の東側に隣接する08-1区の調査状況を踏まえると、第3層は近世期、第4層は中世期の包含層であると考える。

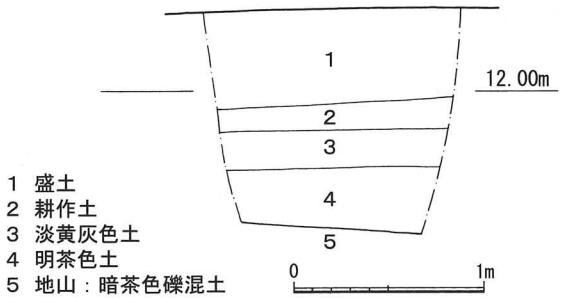
遺構は検出されなかった。



第７図　下出北遺跡調査区位置図



第８図　下出北遺跡09-1区 トレンチ位置図



第９図　下出北遺跡09-1区 トレンチ北側断面図

１０－１区（第７・10・11図）

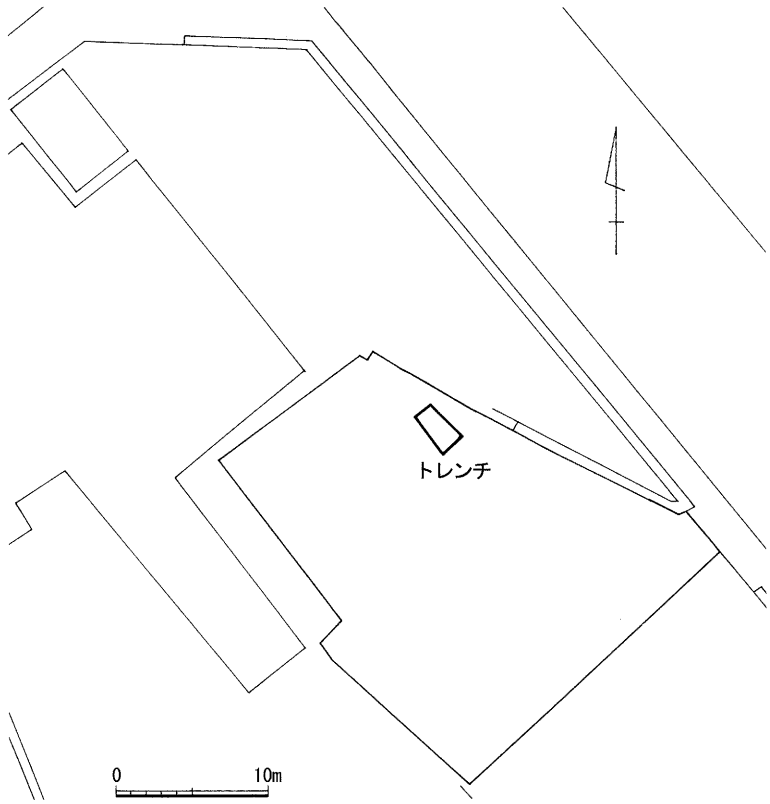
調査区は下出北遺跡の中央部で、先述の09-1区の約100m北に位置する。

調査は調査区の北部に3.2m×1.3mのトレンチを設定し実施した。

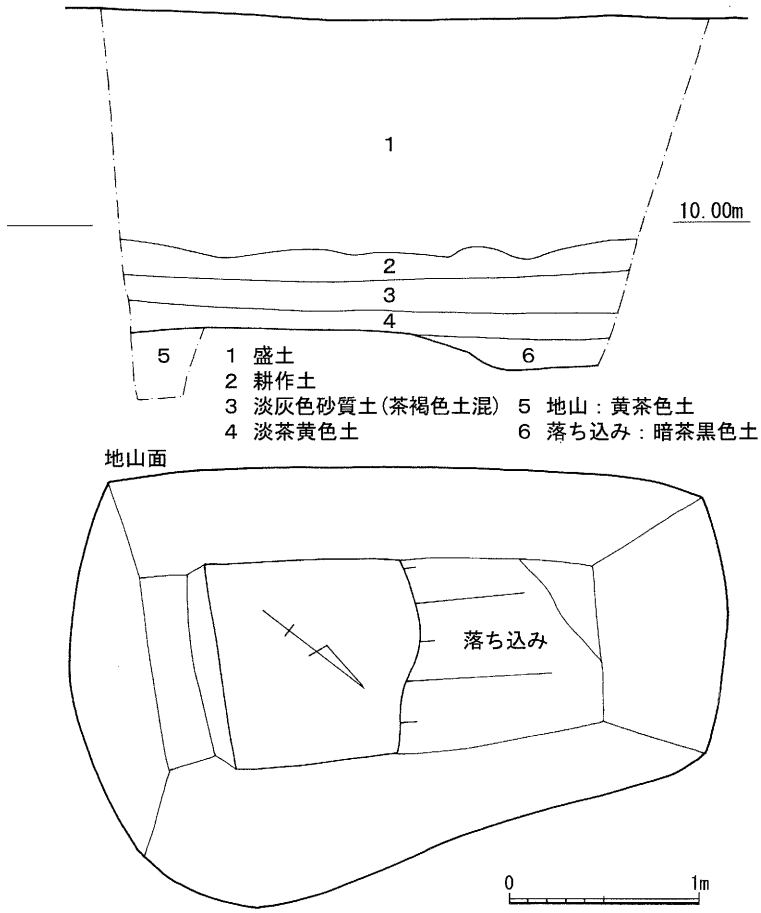
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層茶褐色土混じりの淡灰色砂質土、第4層淡茶黄色土、第5層黄茶色土の地山である。盛土からの油性物質の染み込みのため、第2層から第4層の間で部分的な変色が見られた。地山は盛土上面から1.70mの深さで検出した。

遺物は第2層から土師質土器、陶器、磁器、第4層から瓦器、土師質土器が出土した。第2層の時代は近世期、第4層の時代は中世期と思われる。

遺構は地山面でトレンチ中央部から北に下がる深さ0.20mの落ち込みを検出した。埋土は暗茶黒色土で、遺物は土師質土器が出土したが、小片のため図化できなかった。時代は中世期と思われる。



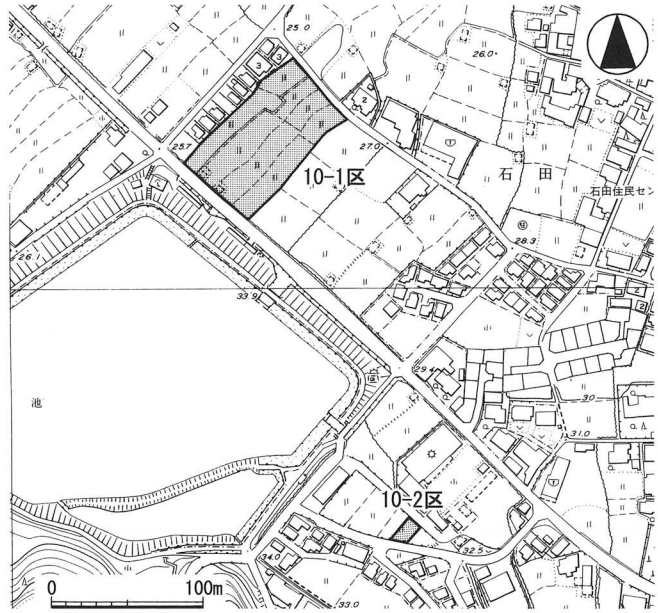
第10図　下出北遺跡10-1区　トレンチ位置図



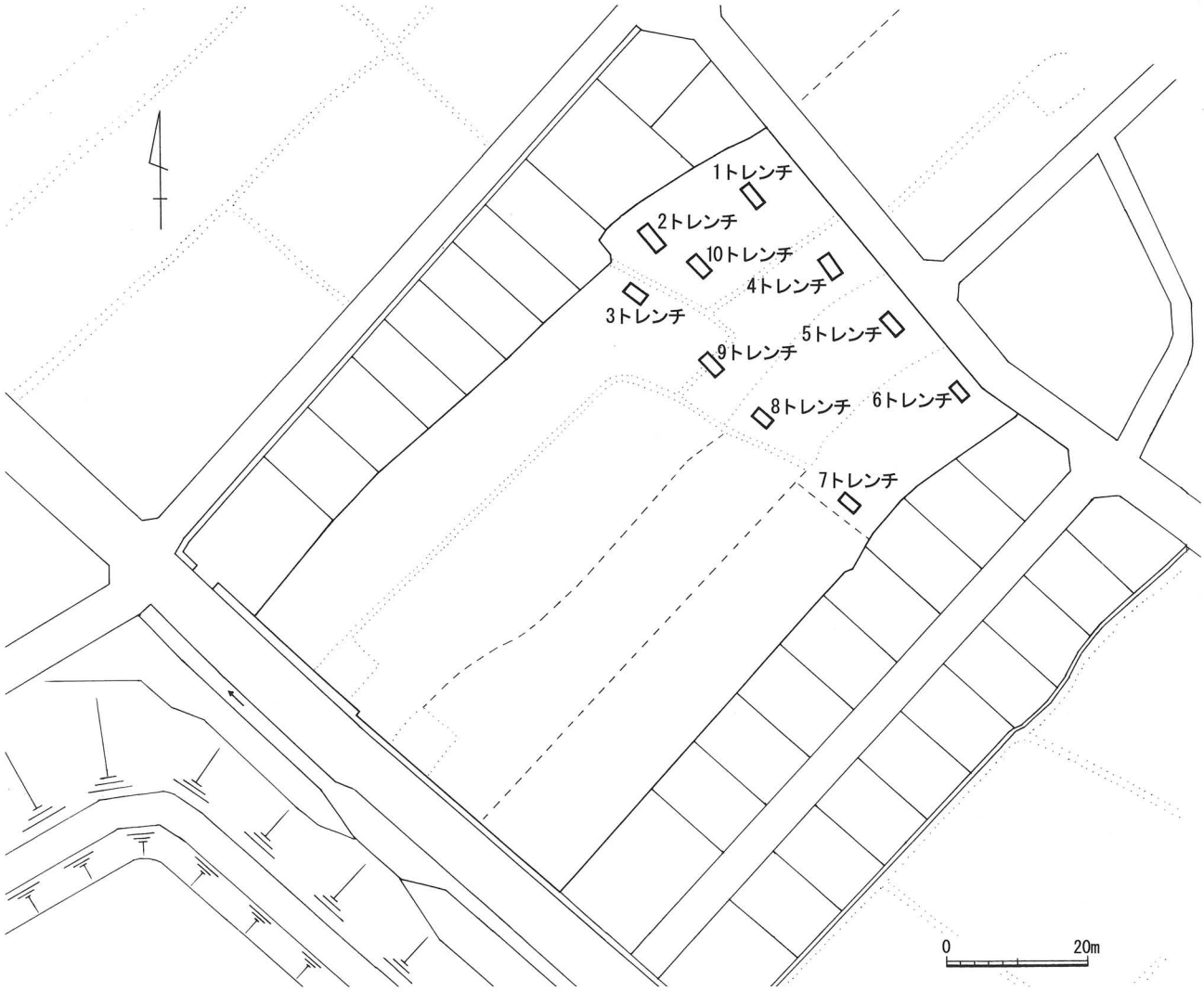
第11図　下出北遺跡10-1区　トレンチ平面図・断面図

第３節　神光寺(蓮池)遺跡

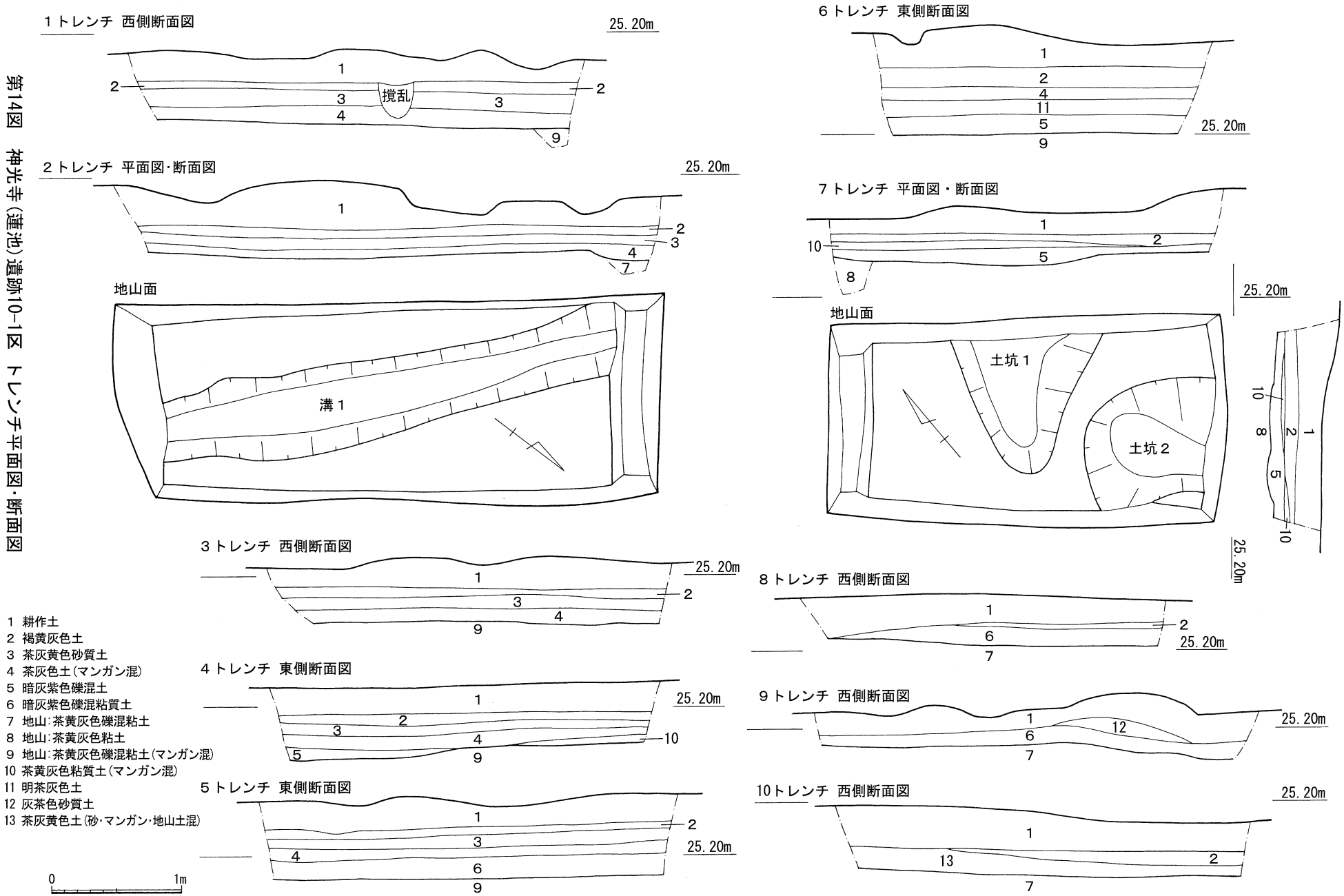
神光寺(蓮池)遺跡は市内で古くから知られている複合遺跡である。遺跡内に所在する市内最大の灌漑用溜池である蓮池の池底からは、縄文時代草創期のサヌカイト製有茎尖頭器をはじめ、各時代の遺物が採取されている。また、既往の調査において、弥生時代中期の方形周溝墓が検出され、波太神社の神宮寺であった神光寺の瓦等が出土していることが特徴的である。



第12図　神光寺(蓮池)遺跡調査区位置図



第13図　神光寺(蓮池)遺跡10-1区　トレンチ位置図



1 耕作土
2 褐黄灰色土
3 茶灰黄色砂質土
4 茶灰色土(マンガン混)
5 暗灰紫色礫混土
6 暗灰紫色礫混粘質土
7 地山:茶黄灰色礫混粘土
8 地山:茶黄灰色粘土
9 地山:茶黄灰色礫混粘土(マンガン混)
10 茶黄灰色粘質土(マンガン混)
11 明茶灰色土
12 灰茶色砂質土
13 茶灰黄色土(砂・マンガン・地山土混)

第14図 神光寺(蓮池)遺跡10-1区 トレンチ平面図・断面図

１０－１区（第12～15図）

調査区は神光寺（蓮池）遺跡の南東部に位置する。

調査は調査区内に10ヶ所のトレンチを設定し、全体で50.39㎡の調査を行った。

基本層序は、第1層耕作土、第2層褐黄灰色土、第3層茶灰黄色砂質土、第4層マンガン混じりの茶灰色土、第5層暗灰紫色礫混土、第6層暗灰紫色礫混粘質土である。地山は茶黄灰色礫混粘土であるが、7トレンチは礫を含まず、1・3～6トレンチではさらにマンガンが混じっている。

9トレンチでは第2層、6～10トレンチでは第3層、7～10トレンチでは第4層、1～3・10トレンチでは第5・6層が存在しない。

遺物は第2層から須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦器、陶器、磁器、中世瓦、第3層から弥生土器、須恵器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁、スサ入り焼土塊、第4層から須恵器、土師器、黒色土器、土師質土器、瓦器、中世瓦、第5層から土師質土器が出土した。また、6トレンチの明茶灰色土から須恵器、土師質土器、瓦器、中世瓦、10トレンチの茶灰黄色土から土師質土器が出土した。第2層は近世期、第3層、第4層、明茶灰色土は中世期の包含層と思われる。1は青磁合子の蓋、2～4は土師質土器皿で3・4はいわゆる白土器である。5は瓦器皿、6は瓦器椀である。１は第3層、2～5は第4層、6は明茶灰色土から出土した。

遺構は2トレンチの地山面で溝を１条、7トレンチの地山面で土坑を2基検出した。

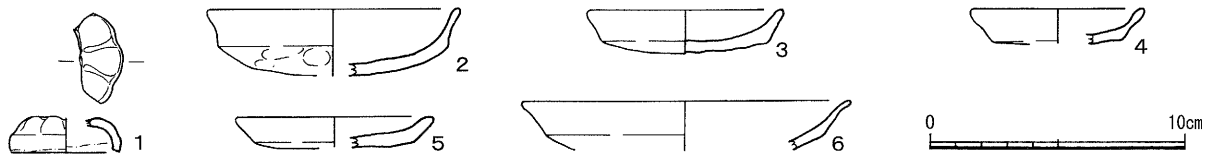
溝１は長さ3.40m以上、幅0.65m、深さ0.05mを測る。埋土は第4層で、瓦器が出土したが小片のため図化できなかった。中世期の溝である。

土坑１は東西1.25m以上、南北1.00m以上、深さ0.05m、土坑２は東西1.00m以上、南北1.00m、深さ0.06mを測り、埋土はいずれも第5層である。遺物は出土しなかったが、埋土から中世期の遺構と考えられる。

１０－２区（第12・16・17図）

調査区は神光寺（蓮池）遺跡の南東部に位置する。

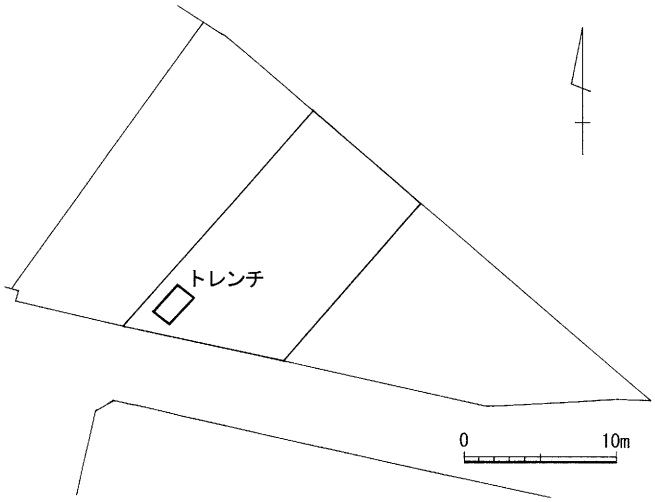
調査は調査区内に2.5m×1.3mのトレンチを設定し行った。



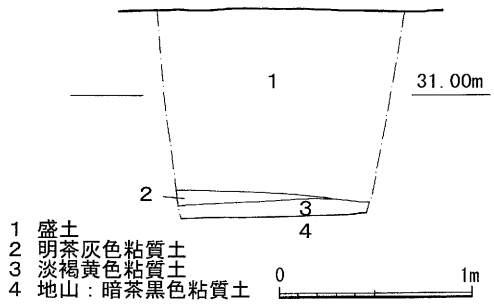
第15図　神光寺（蓮池）遺跡10-1区 出土遺物

基本層序は、第1層盛土、第2層明茶灰色粘質土、第3層淡褐黄色粘質土、第4層暗茶黒色粘質土の地山である。地山は盛土上面から1.10mの深さで検出した。遺物は出土しなかったが、隣接する07-10区の調査から第2層は中世期であることがわかる。また同調査では北方向へ下がる落ち込みを確認しており、その埋土と第3層が同じことから、第3層も落ち込みの埋土と思われる。

遺物は盛土から中世瓦が1点出土したのみである。

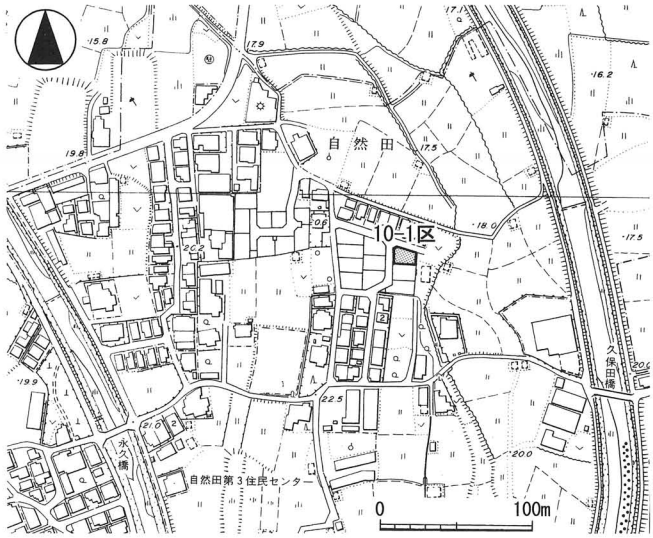


第16図　神光寺(蓮池)遺跡10-2区　トレンチ位置図



第17図　神光寺(蓮池)遺跡10-2区
トレンチ北側断面図

第４節　向出遺跡



第18図　向出遺跡調査区位置図

向出遺跡は、本市の東部を流れる男里川の支流である山中川と菟砥川に挟まれた河岸段丘とその氾濫原に位置する。昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。遺跡は東西約300m、南北約500mと比較的大きく、遺跡の北部では調査件数が少ないため詳細は不明であるが、中央部で行った00-2区と06-1区の調査では古墳時代中期の竪穴住居が各１棟確認された。南部では、平成9(1997)年に(財)大阪府文化財調査研究センターが行った国道26号線(第二阪和国道)延長に先立つ事前調査で、縄文時代後期から晩期の西日本最大級の土坑墓群が検出されている。また、遺跡の南部からは中世瓦が出土しているものの、寺院等に関連する遺構は現在のところ検出されていない。

１０－１区（第18～20図）

調査区は向出遺跡の中央部に位置する。先述した古墳時代中期の竪穴住居が検出された00-2区や06-1区から約90m東に位置する。

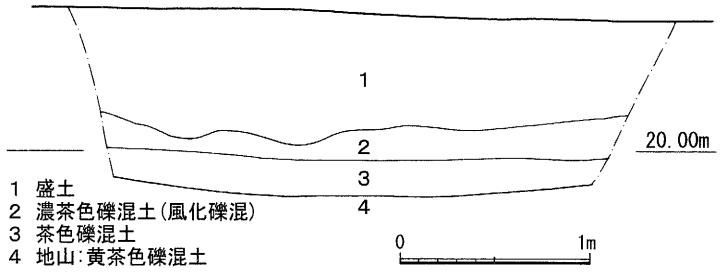
調査は調査区の北部に3.2m×1.7mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層風化礫混じりの濃茶色礫混土、第3層茶色礫混土、第4層黄茶色礫混土の地山である。地山は盛土上面から1.00mの深さで検出した。

遺物は出土しなかった。

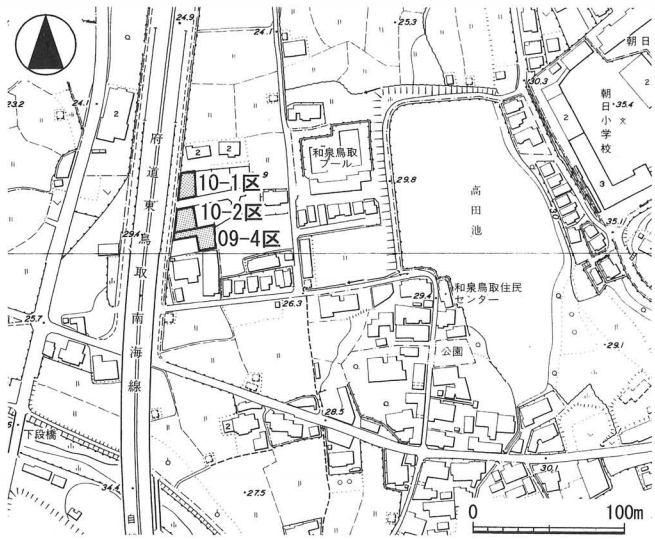
第19図　向出遺跡10-1区　トレンチ位置図

遺構は確認できなかったが、当調査での第2・3層は、隣接する既往の調査である88-1区と08-3区で検出された中世期の溝の埋土と同じ堆積であるため、今回のトレンチはその溝の中に位置すると考えられる。



第20図　向出遺跡10-1区 トレンチ北側断面図

第５節　高田南遺跡



第21図　高田南遺跡調査区位置図

高田南遺跡は、阪南町教育委員会が昭和63(1988)年度に行った埋蔵文化財分布調査で、古墳時代から近世期の遺物を採取し、遺跡の存在が知られた。遺跡の西側は男里川の支流である山中川が形成する河岸段丘に面し、東側は標高54.5mの高田山丘陵を隔てて泉南市にいたる。高田山丘陵には5基の古墳が存在したといわれているが、詳細な調査もされないまま削り取られて宅地化された。今回報告する調査区を含む民間の宅地開発に先立って行われた07-1区の調査では、幅約21mの南北方向の中世期流路を確認している。

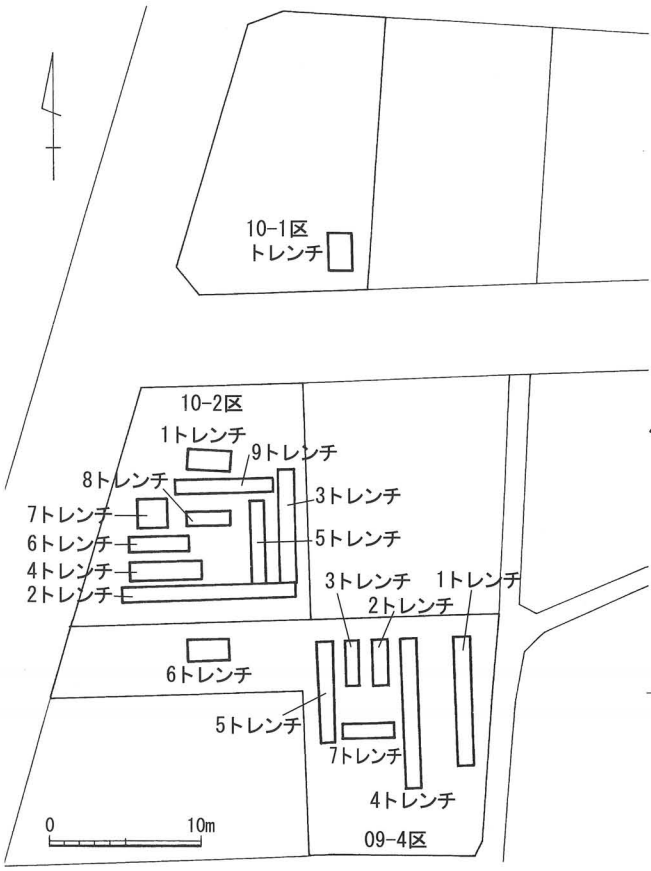
０９－４区（第21～24図）

調査区は高田南遺跡の北部に位置し、先述した07-1区の約20m南に所在する。

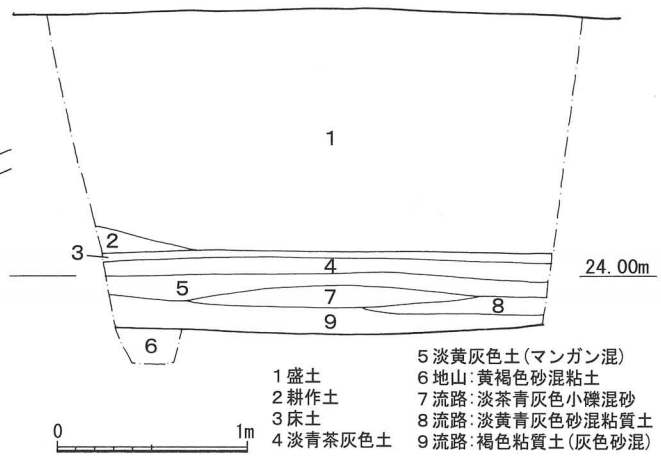
調査は調査区内に7ヶ所のトレンチを設定し、全体で38.90㎡の調査を実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層淡青茶灰色土、第5層マンガン混じりの淡黄灰色土、第6層黄褐色砂混粘土の地山である。地山は盛土上面から1.80mの深さで検出した。

遺物は第4層と第5層のそれぞれから土師

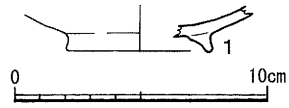


第22図 高田南遺跡09-4・10-1・10-2区トレンチ位置図



第23図 高田南遺跡09-4区 6トレンチ北側断面図

器、瓦器、土師質土器が出土した。1は瓦器椀の底部で、6トレンチの第4層から出土した。



第24図 高田南遺跡09-4区 出土遺物

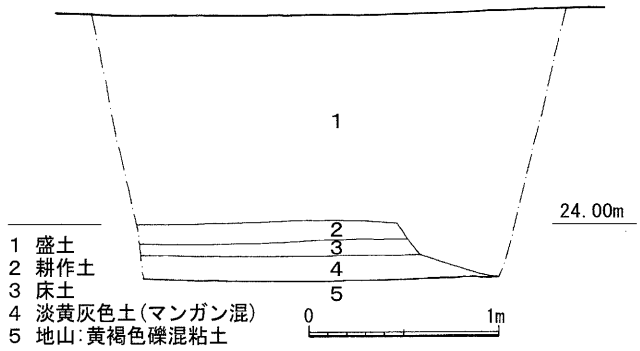
調査区東部の1トレンチでは第5層以下に淡灰緑色土を検出し、調査区西部の6トレンチでは第5層以下に淡茶青灰色小礫混砂、淡黄青灰色砂混粘質土、灰色砂混じりの褐色粘質土を確認した。これらの層は07-10区を含む周辺の既往調査で検出した中世期流路の堆積であると思われる。今回の調査では淡灰緑色土から瓦質土器が出土している。

1トレンチと6トレンチの間に位置する2～5・7トレンチでは第5層以下に流路の埋土と思われる堆積は確認されなかった。当調査区の北側に隣接する既往の調査区である09-2区においても調査区中央部のトレンチでは流路の埋土が検出されず、この部分が流路の中洲状になっていた可能性が考えられており、今回の調査においても同じ状況を確認した。

１０－１区（第21・22・25図）

調査区は高田南遺跡の北部に位置し、先述の07-1区の北側に隣接し、09-4区の北約30mに近接する。

調査は調査区の南部に2.5m×1.5mのトレンチを設定し実施した。



第25図 高田南遺跡10-1区 トレンチ東側断面図

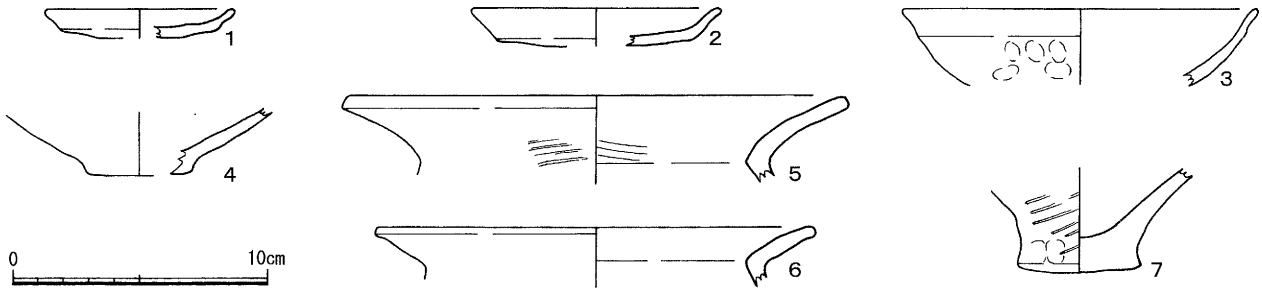
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層マンガン混じりの淡黄灰色土、第5層黄褐色礫混粘土の地山である。地山は盛土上面から1.40mの深さで検出した。

遺物は第4層から瓦器が1点出土したが、小片のために図化できなかった。

遺構は検出されなかった。

１０－２区（第21・22・26・27図）

調査区は高田南遺跡の北部に位置し、07-1区、09-2区、09-4区に囲まれている。



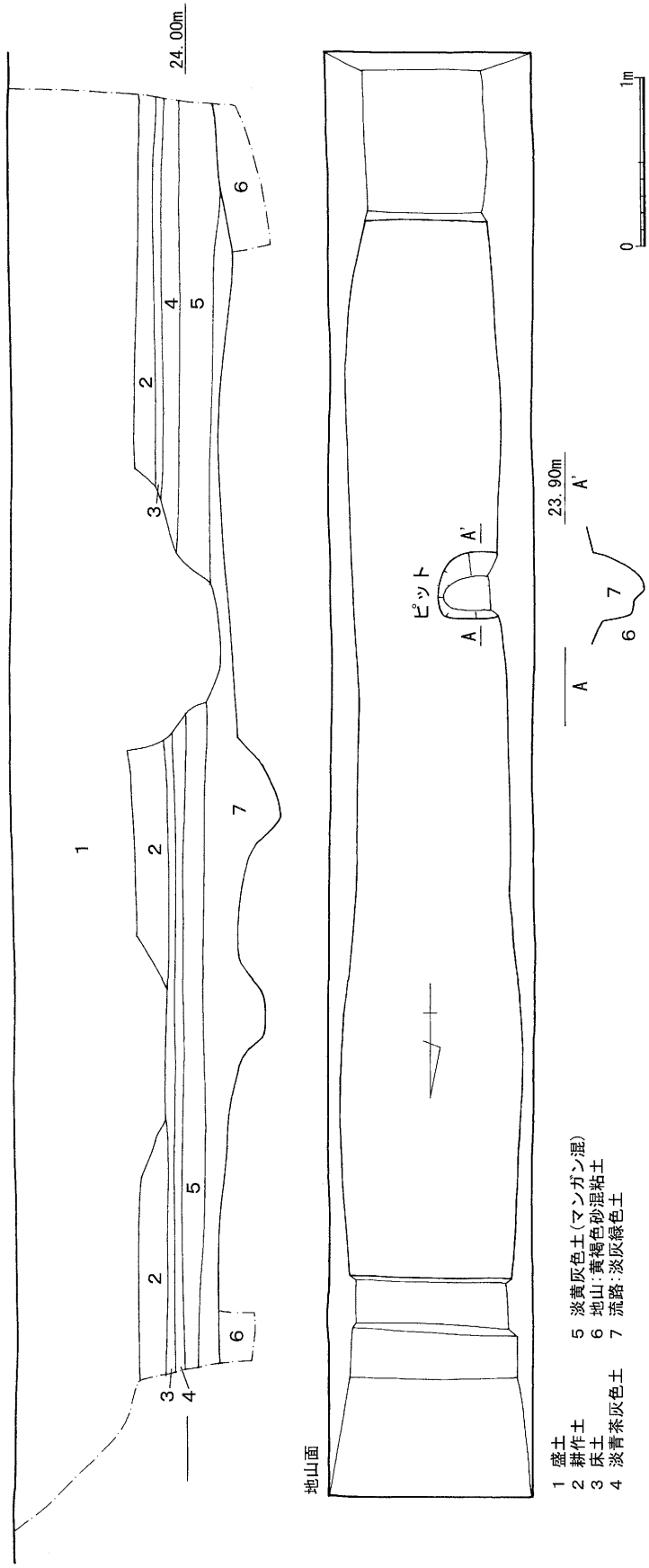
第27図 高田南遺跡10-2区 出土遺物

調査は調査区内に9ヶ所のトレンチを設定し、全体で54.24㎡の調査を実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層淡青茶灰色土、第5層マンガン混じりの淡黄灰色土、第6層黄褐色砂混粘土の地山である。

遺物は第4層から弥生土器、瓦器、土師質土器、白磁、第5層から弥生土器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器が出土した。第4・5層は中世期の包含層である。1は土師質土器の小皿で第4層、2は土師質土器の皿、3は瓦器椀で第5層から出土した。

1トレンチでは第5層と地山の間で淡灰緑色土と暗茶褐色粘質土、3～9トレンチでは淡灰緑色土の堆積を確認した。第5層以下は既往調査で中世期流路の堆積であることが判明しているが、当調査区の南端部で東西方向に設定した2トレンチでは検出しなかった。南側に隣接した09-4区の調査では流路が確認されており、東側に隣接した09-2区では中洲状微高地の存在が推察されていることから、2トレンチについても微高地の可能性がある。淡灰緑色土から縄文土器、弥生土器、瓦器、土師質土器、中世瓦が出土した。4～7は弥生土器で、4は壺の底部、5～7は甕で、5・6は口縁部、7は底部である。



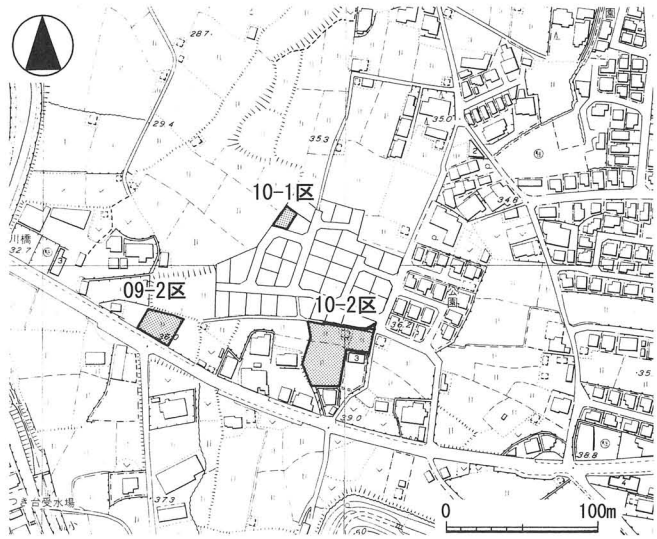
第26図　高田南遺跡10-2区　3トレンチ平面図・断面図

流路の堆積以外に3トレンチの地山面でピット1基を検出した。直径0.40m、深さ0.30m、埋土は淡灰緑色土で、遺物は出土しなかった。

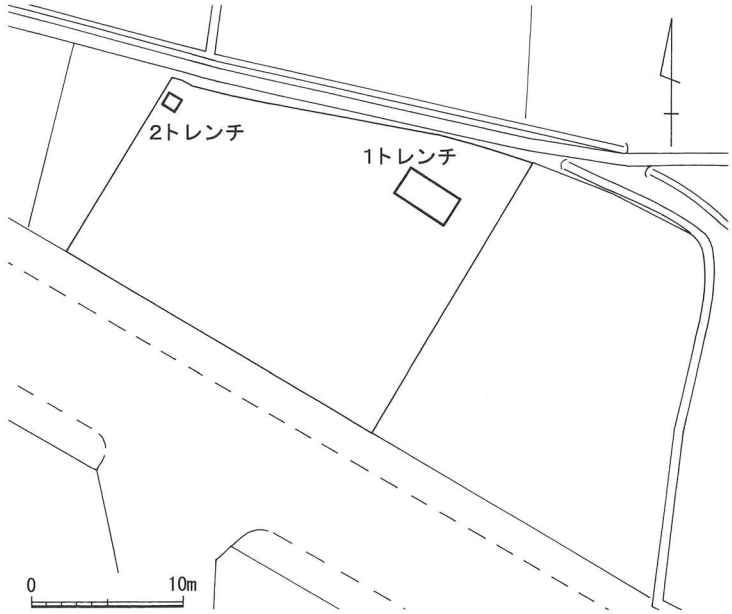
第６節　自然田遺跡

自然田遺跡は、昭和61(1986)年度、民間の宅地造成工事に伴う事前調査で発見された遺跡で、男里川の支流である菟砥川の右岸に位置する。この調査では遺構は検出しなかったが、遺物包含層からサヌカイト製のナイフ形石器や中世期の遺物が出土した。

遺跡内では、現在までに30件を超える調査が行われている。遺跡北部の調査では、中世期から近世期の遺物が若干出土しているものの、遺構の検出にはいたっていない。南部の99-1区、05-1区の調査では、弥生時代後期や古墳時代中期の竪穴住居を検出している。当遺跡の南側丘陵には、古墳時代終末期に造営された玉田山古墳群が所在し、被葬者の居住地が丘陵周辺に位置すると想定するが、自然田遺跡では、同時期の集落跡は未だ検出されていない。



第28図　自然田遺跡調査区位置図

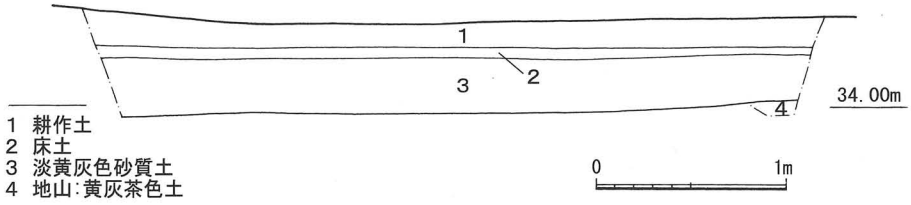


第29図　自然田遺跡09-2区　トレンチ位置図

０９－２区（第28～30図）

調査区は自然田遺跡の西部に位置する。

調査は調査区の北東部に2.0m×3.9mの1トレンチを、北西部に1.0m×1.0mの2トレンチを設定して行った。



第30図　自然田遺跡09-2区　１トレンチ北側断面図

基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層淡黄灰色砂質土、第4層黄灰茶色土の地山である。地山は盛土上面から1トレンチでは0.58m、２トレンチでは0.49mの深さで検出した。

遺物は第3層から磁器が出土したが、図化できなかった。出土遺物から第3層は近世期以降の堆積であると考える。

いずれのトレンチからも遺構は検出されなかった。

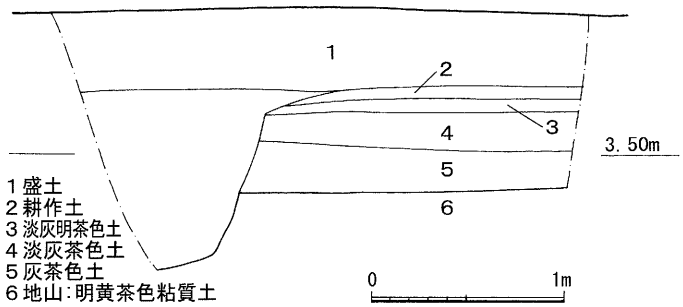
第31図　自然田遺跡10-1区　トレンチ位置図

１０－１区（第28・31・32図）

調査区は自然田遺跡の南部に位置し、先述の09-2区の北東約100mに位置する。隣接する既往の調査である05-1区では、古墳時代中期の竪穴住居が1棟検出されている。

調査は調査区の南部に2.8m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡灰明茶色土、第4層淡灰茶色土、第5層灰茶色土、第6層明黄茶色粘質土の地山である。地山は盛土上面から0.98mの深さで検出した。



第32図　自然田遺跡10-1区　トレンチ西側断面図

遺物は第4層から瓦器、土師質土器、瓦質土器、第5層から須恵器、土師質土器が出土したが、近隣の調査から第4・5層とも近世期の包含層と推測される。

遺構は検出されなかった。

１０－２区（第28・33・34図）

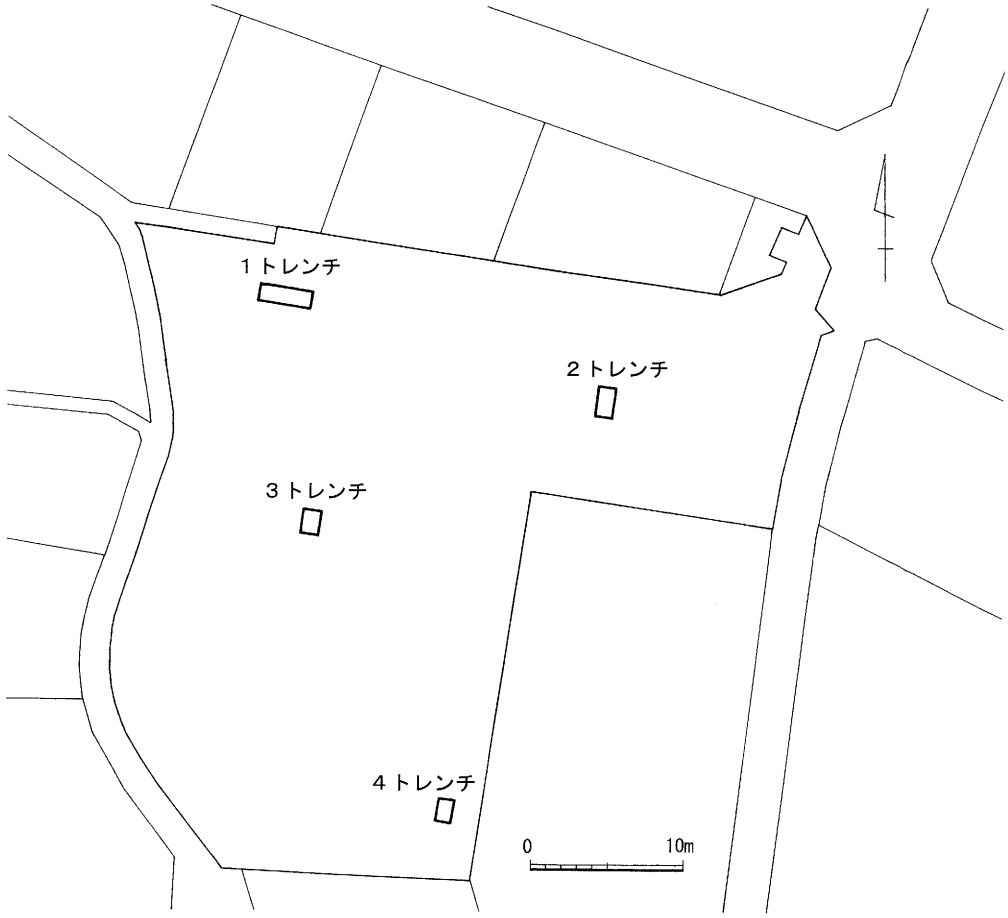
調査区は自然田遺跡の南部に位置する。周辺では過去に90-1区、01-1区、06-3区、08-2区の調査を行っている。これらの調査では、中世期や近世期の遺物包含層を確認しているが、遺構は検出されていない。

調査は調査区内に4ヶ所のトレンチを設定し、全体で10.76㎡の調査を実施した。

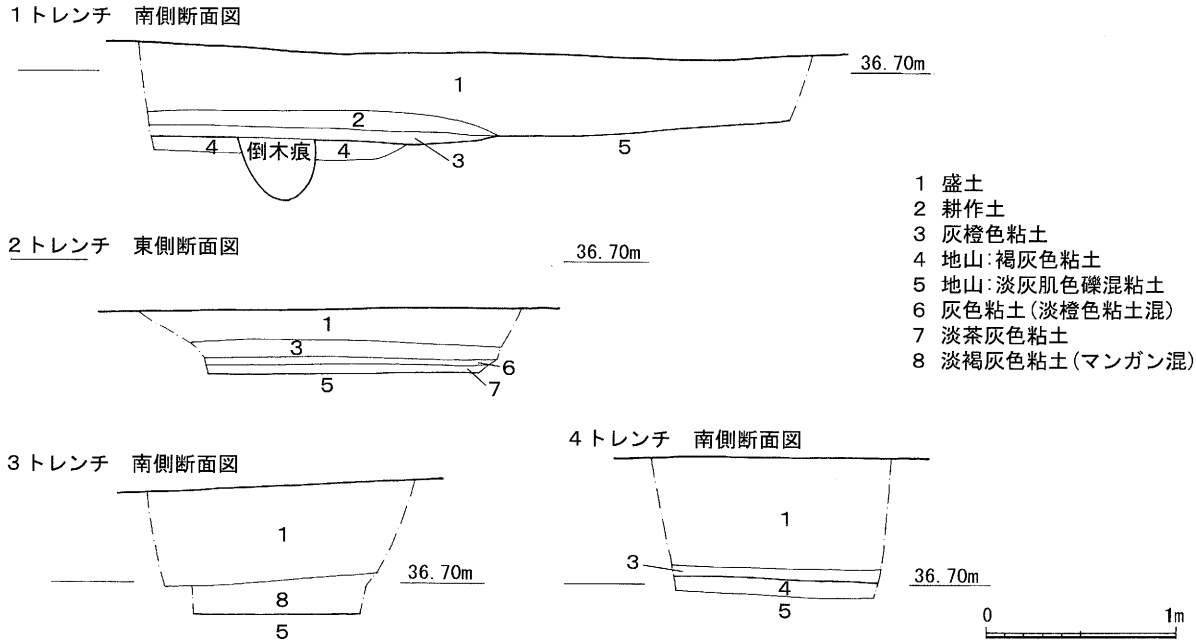
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰橙色粘土、第4層褐灰色粘土と淡灰肌色礫混粘土の地山である。

2トレンチでは第3層と地山の間に淡橙色粘土混じりの灰色粘土と淡茶灰色粘土を確認した。3トレンチでは第3層もなく、第1層の下はマンガン混じりの淡褐灰色粘土である。

いずれのトレンチにおいても遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



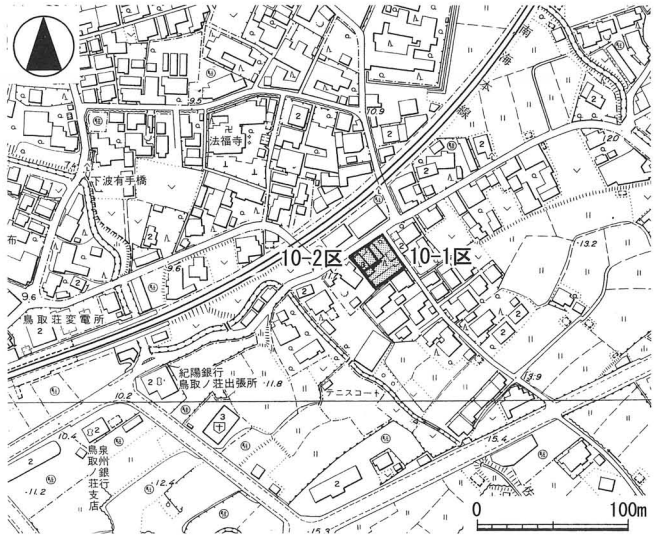
第33図　自然田遺跡10-2区　トレンチ位置図



第34図　自然田遺跡10-2区　トレンチ断面図

第７節　鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は、昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会が実施した埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。東は黒田南遺跡と神光寺(蓮池)遺跡、北を鳥取遺跡、西を波有手遺跡と西鳥取遺跡に囲まれており、南は和泉山脈から派生した丘陵地帯である。過去の調査では、弥生時代後期から中世期にかけての遺構、遺物が検出されているが、遺跡の詳細は不明である。



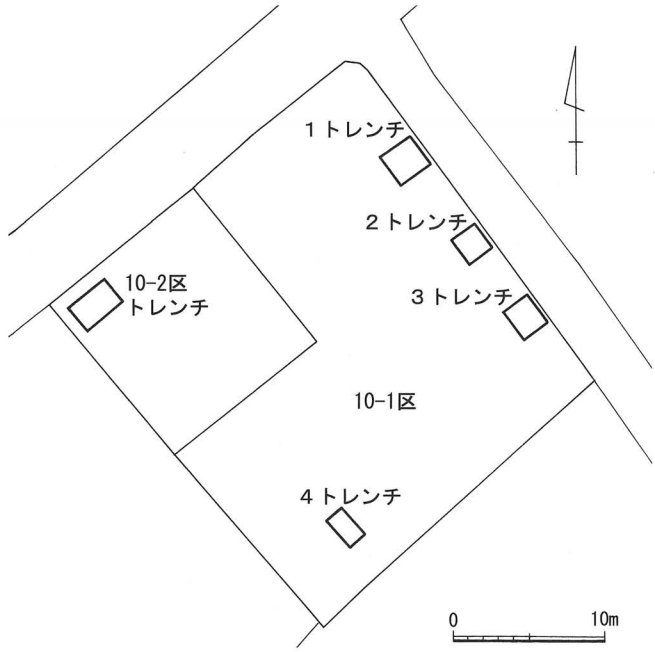
第35図　鳥取南遺跡調査区位置図

１０－１区（第35～37図）

調査区は鳥取南遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に4ヶ所のトレンチを設定し、全体で18.75㎡の調査を行った。

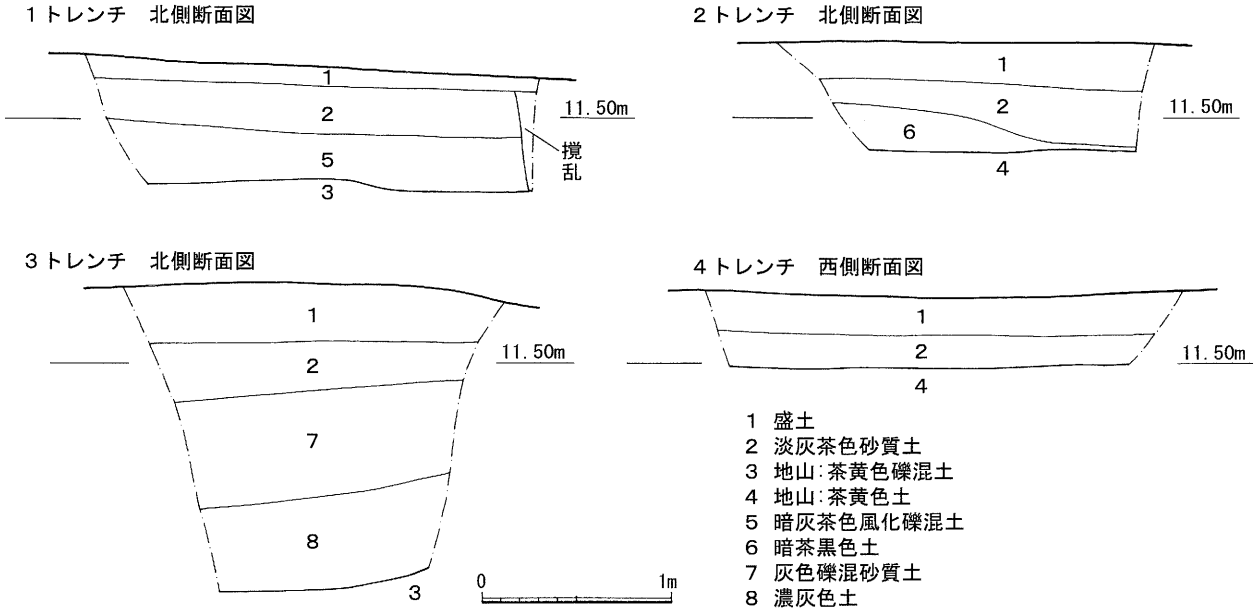
基本層序は、第1層盛土、第2層淡灰茶色砂質土、第3層茶黄色礫混土と茶黄色土の地山である。第2層と地山の間に1トレンチでは暗灰茶色風化礫混土、2トレンチでは暗茶黒色土、3トレンチでは灰色礫混砂質土と濃灰色土を確認した。地山は1・2・4トレンチでは盛土上面から0.40～0.65mの深さで検出したが、3トレンチでは1.64mと深く、灰色礫混砂質土と濃灰色土は遺構の埋土の可能性が考えられる。



第36図　鳥取南遺跡10-1区・10-2区　トレンチ位置図

遺物は2トレンチの第2層から土師質土器が出土した。3トレンチの灰色礫混砂質土から瓦質土器、陶器、磁器、近世瓦が出土したため、第2層は近世期である。暗茶灰色風化礫混土、暗茶黒色土、濃灰色土からは遺物が出土しなかったため、時代は不明である。図化できる遺物はなかった。

遺構は検出されなかった。



第37図　鳥取南遺跡10-1区　トレンチ断面図

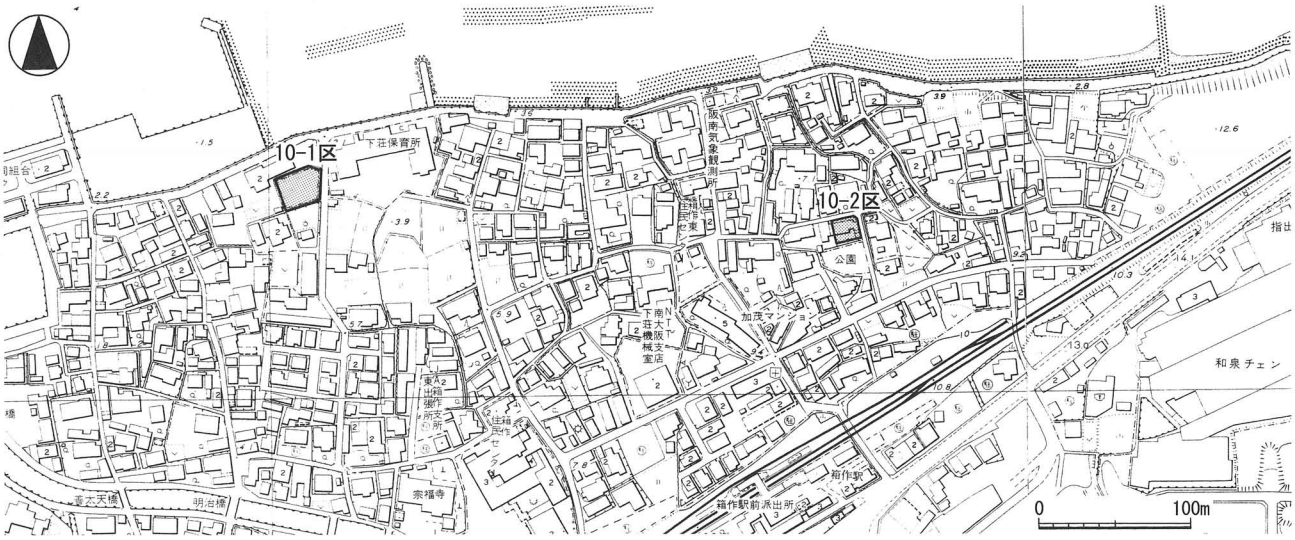
１０－２区（第35・36図）

調査区は鳥取南遺跡の北部に位置し、先述の10-1区に隣接する。

調査は調査区の西部に3.0m×2.0mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層茶黄色礫混土の地山であった。地山は盛土上面から0.7mの深さで検出した。

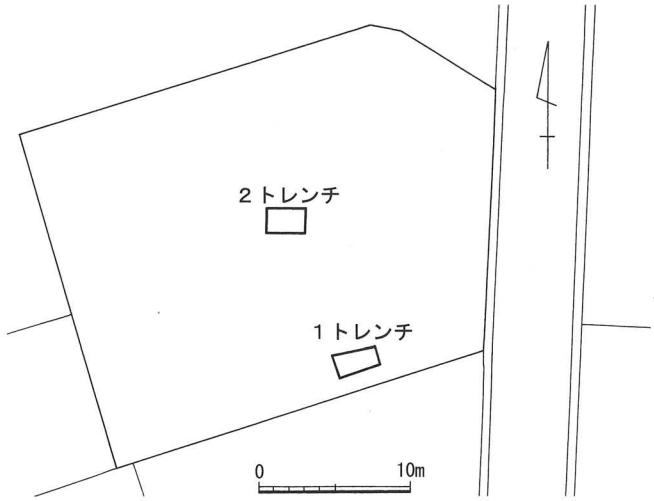
遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第38図　箱作今池遺跡調査区位置図

第８節　箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は阪南市の北西部に位置し、茶屋川とその支流である飯ノ峯川が形成する扇状地に拡がる。平成5(1993)年に(財)大阪府文化財調査研究センターが遺跡南部で行った調査により、奈良時代に掘立柱建物群が築造され、室町時代には大規模な土地改変で耕作地化されたことがわかっている。北部の調査では海岸線に近い場所から中世期の蛸壺をはじめとする漁具が出土しており、漁労集落の存在が想定されているものの小規模な調査が多く、詳細は不明である。

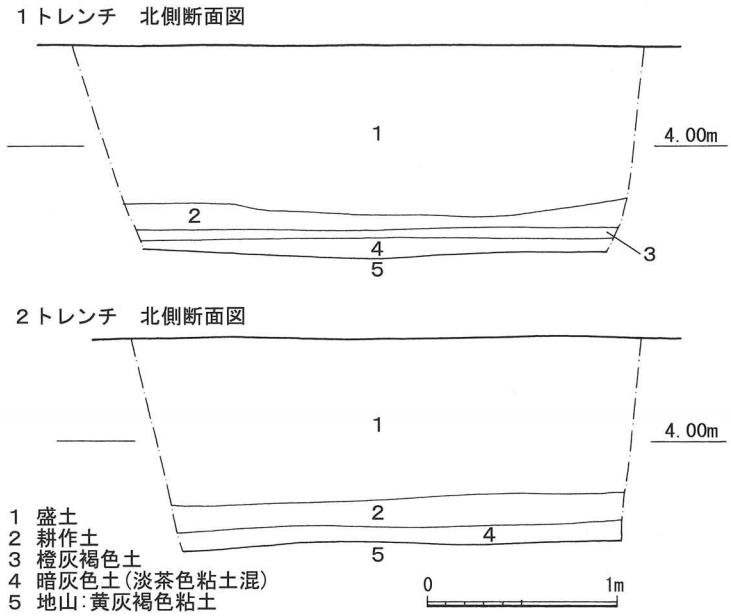


第39図　箱作今池遺跡10-1区　トレンチ位置図

１０－１区（第38～40図）

調査区は箱作今池遺跡の北西部に位置し、過去に調査した07-2区と同じ敷地内に所在する。

調査は調査区の南部に3.0m×1.7mの1トレンチと中央部に2.7m×1.8mの2トレンチを設定し実施した。



第40図　箱作今池遺跡10-1区　トレンチ断面図

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層橙灰褐色土、第4層淡茶色粘土混じりの暗灰色土、第5層黄灰褐色粘土の地山である。地山は盛土上面から1.10mの深さで検出した。2トレンチでは第3層は存在しなかった。

遺物は各トレンチの第4層から瓦器、土師質土器が出土したが、図化できるものはなかった。中世期の包含層と思われる。

07-2区の調査では地山面で幅1.50m、深さ0.20mの中世期の溝を検出したが、今回の調査では遺構は検出されなかった。

１０－２区（第38・41～43図）

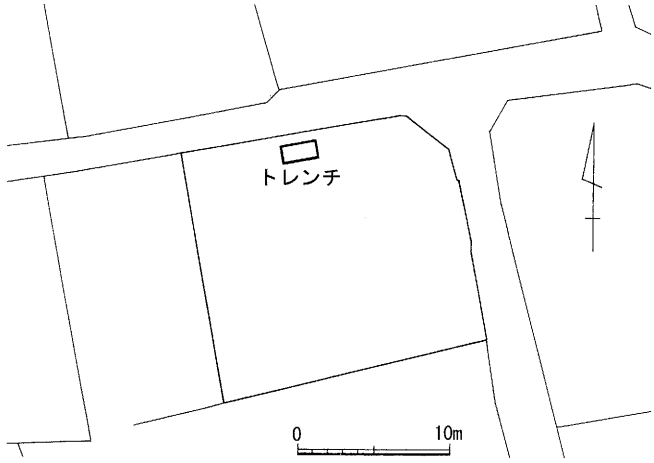
調査区は箱作今池遺跡の北部に位置し、現在の海岸線から約100m南に位置する。調査区の南側に近接する90-8区では、遺構は検出されなかったものの、中世期の遺物包含層を確認している。

調査は調査区の北部に2.5m×1.2mのトレンチを設定し実施した。

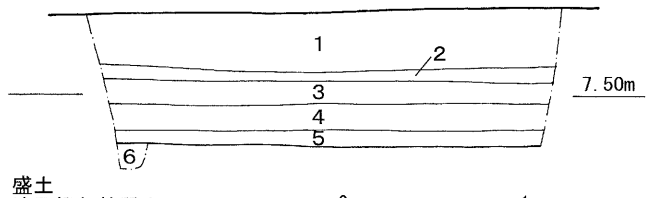
基本層序は第1層盛土、第2層淡灰橙色粘質土、第3層淡灰色土、第4層淡褐灰色土、第５層淡黄灰色土、第6層明灰黄色土の地山である。地山は盛土上面から0.70mの深さで検出した。

遺物は第3層から須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、土師質蛸壺、製塩土器、第4層から須恵器、瓦器、土師質土器、土師質蛸壺、第5層から須恵器、黒色土器、土師質土器が出土した。いずれも中世期の包含層と思われる。1は須恵器の壺底部で、7世紀のもので、第3層から出土した。2は瓦器椀で14世紀のもので第4層から出土した。

遺構は検出されなかった。



第41図　箱作今池遺跡10-2区　トレンチ位置図



1 盛土
2 淡灰橙色粘質土
3 淡灰色土
4 淡褐灰色土
5 淡黄灰色土
6 地山：明灰黄色土

第42図　箱作今池遺跡10-2区　トレンチ南側断面図

第43図　箱作今池遺跡10-2区　出土遺物

第９節　尾崎範囲外

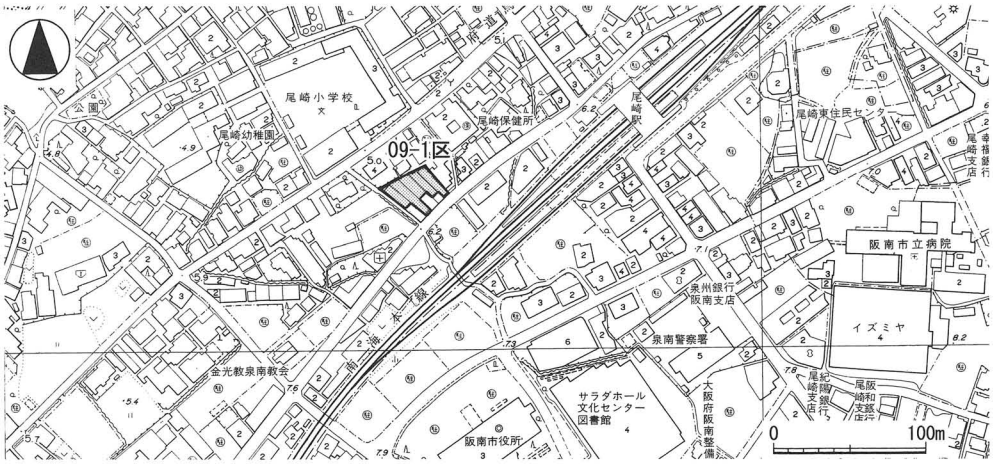
０９－１区（第44～46図）

調査区は、南海本線尾崎駅から西へ約130ｍの地点に位置する。周辺には北へ約200ｍで尾崎清水遺跡が、西へ約170ｍで黒田北遺跡が所在する。当調査区は遺跡の範囲外であるが、当地域での埋蔵文化財関連の情報が乏しく、その状況を把握すべく調査が必要であると判断した。

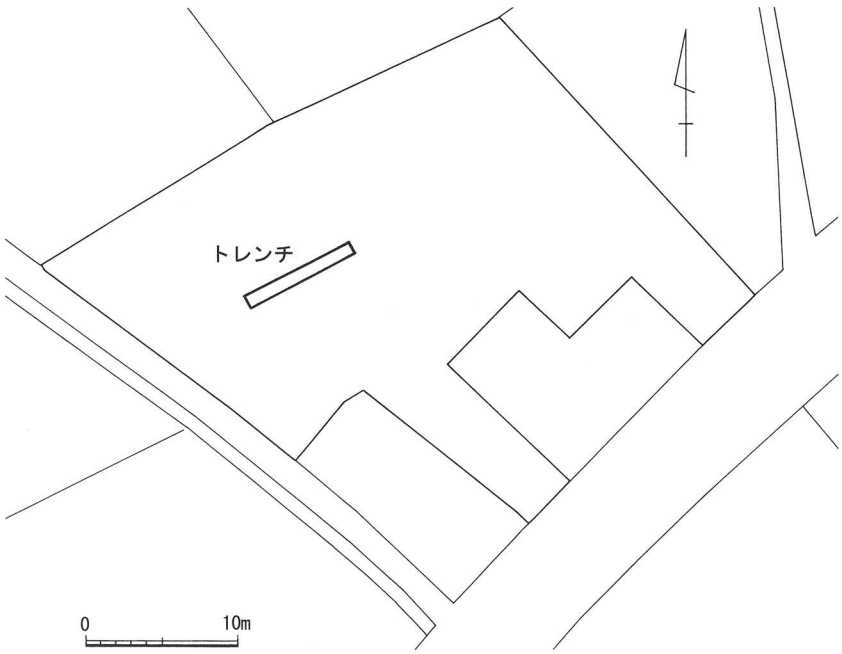
調査は7.8ｍ×1.0ｍのトレンチを設定して行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層地山土が混じる灰白色粘質土、第4層淡黄灰色粘質土の地山である。地山は盛土上面から1.38ｍの深さで検出した。

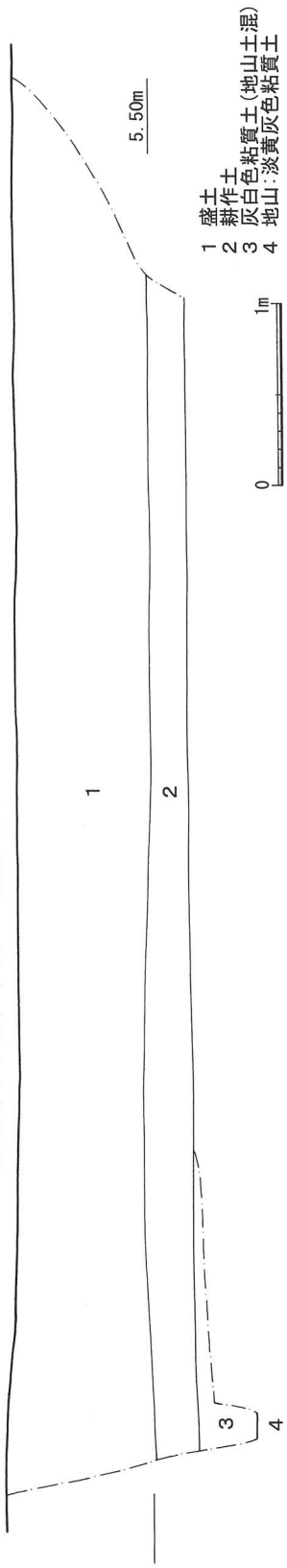
遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第44図　尾崎範囲外調査区位置図



第45図　尾崎範囲外09-1区　トレンチ位置図



第46図 尾崎範囲外09-1区
トレンチ北側断面図

第１０節　鳥取中範囲外

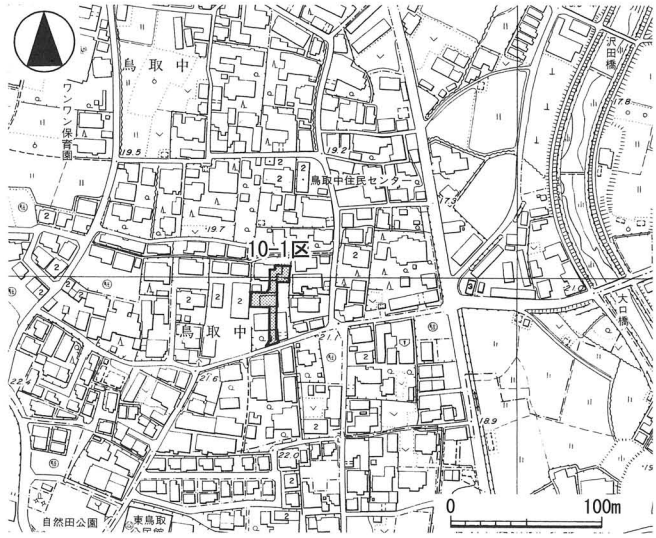
１０－１区（第47・48図）

調査区は、阪南市の東部に位置する。周辺には北へ約200mで水附遺跡と室堂遺跡、東へ約250mで向出遺跡、西へ約200mで正方寺遺跡、南へ約400mで西畑遺跡が所在する。当調査区は遺跡の範囲外であるが、当地域での埋蔵文化財関連の情報が乏しく、その状況を把握すべく調査が必要であると判断した。

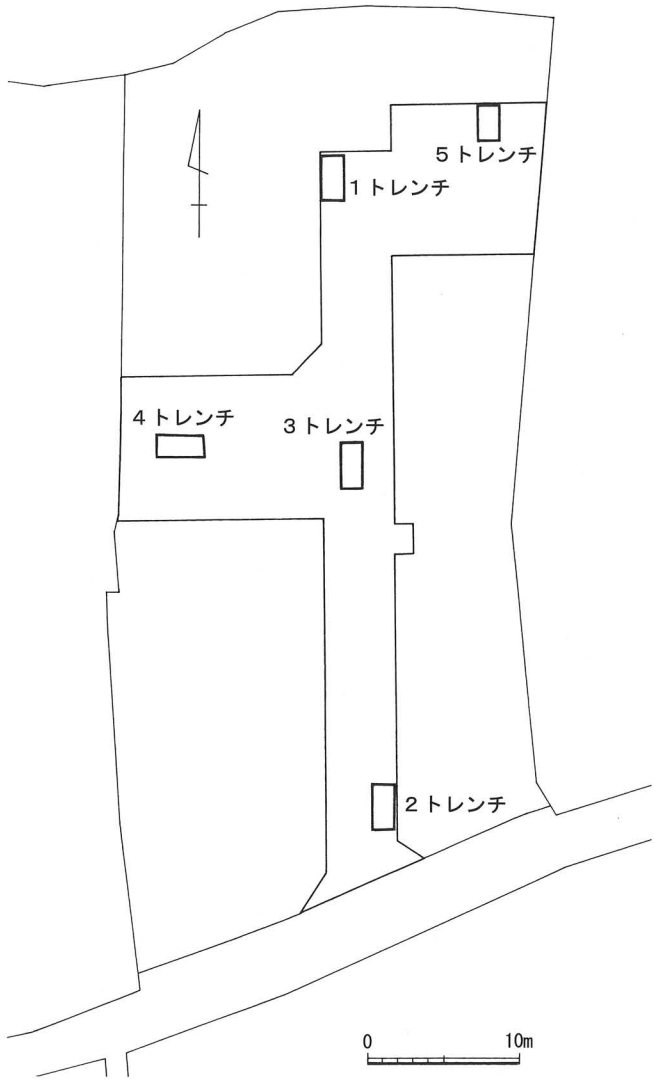
調査は調査区内に5ヶ所のトレンチを設定し、全体で21.75㎡の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層褐黄色礫混粘質土の地山である。地山は盛土上面から0.70～1.00mの深さで検出した。

いずれのトレンチからも遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。



第47図　鳥取中範囲外調査区位置図



第48図　鳥取中範囲外10-1区　トレンチ位置図

報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう２８
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要ＸＸⅧ
副書名	
巻次	
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告
シリーズ番号	４８
編著者名	田中早苗・上野　仁・山千代明日香
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室
所在地	〒599-0292　大阪府阪南市尾崎町３５－１　TEL 072-471-5678
発行年月日	2011年３月31日

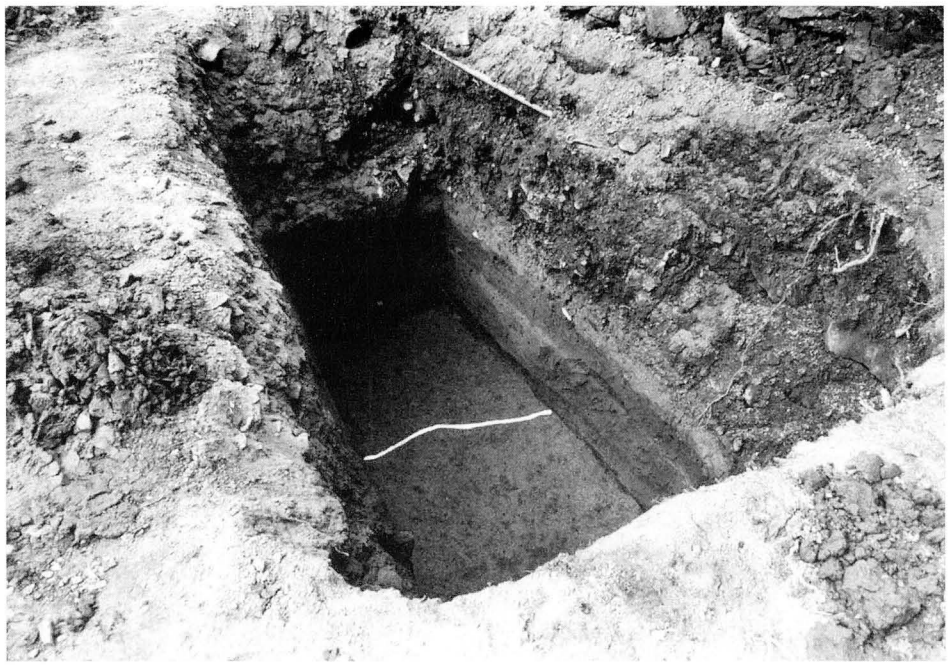
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村番号	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
うちはた 内畑	しもいで 下出	27232	40	34 21 20	135 14 50	20100310・0311	7.30	個人住宅
しもいできた 下出北	しもいで 下出	27232	41	34 21 11	135 15 12	20100124・0125	4.05	個人住宅
しもいできた 下出北	しもいで 下出	27232	41	34 21 15	135 15 10	20101108・1109	4.16	個人住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いしだ 石田	27232	20	34 20 38	135 14 45	20100621～1012	50.39	店舗
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いしだ 石田	27232	20	34 20 30	135 14 50	20101102～1104	3.25	建売住宅
むかいで 向出	じねんだ 自然田	27232	43	34 20 51	135 15 32	20101013・1014	5.44	個人住宅
こうだみなみ 高田南	じねんだ 自然田	27232	46	34 20 36	135 15 44	20100324～0331	38.90	個人住宅
こうだみなみ 高田南	じねんだ 自然田	27232	46	34 20 37	135 15 44	20100616・0617	3.75	個人住宅
こうだみなみ 高田南	じねんだ 自然田	27232	46	34 20 37	135 15 44	20100922～1008	54.24	個人住宅
じねんだ 自然田	じねんだ 自然田	27232	35	34 20 16	135 15 26	20100122～0125	8.80	個人住宅
じねんだ 自然田	じねんだ 自然田	27232	35	34 20 20	135 15 25	20100803・0804	4.20	個人住宅
じねんだ 自然田	じねんだ 自然田	27232	35	34 20 18	135 15 27	20101216～1220	10.76	宅地開発
とっとりみなみ 鳥取南	とっとり 鳥取	27232	55	34 20 54	135 14 12	20100811・0812	18.75	宅地開発
とっとりみなみ 鳥取南	とっとり 鳥取	27232	55	34 20 54	135 14 12	20100927・0928	6.00	個人住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34 20 23	135 12 42	20100419・0420	9.96	個人住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 箱作	27232	24	34 20 22	135 12 56	20100601・0602	3.00	個人住宅
おざきはんいがい 尾崎範囲外	おざきちょう 尾崎町	27232	—	34 21 28	135 14 30	20100208	7.80	共同住宅
とっとりなかはんいがい 鳥取中範囲外	とっとりなか 鳥取中	27232	—	34 20 51	135 15 13	20100720～0727	21.75	宅地開発

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内　　畑	散布地	近世期	土坑	土師器、土師質土器、白磁、近世瓦	
下　出　北	散布地	中世期～近世期		土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器	
下　出　北	散布地	中世期～近世期	落ち込み	瓦器、土師質土器、陶器、磁器	
神光寺（蓮池）	寺院跡、散布地、その他の墓	中世期	土坑、溝	弥生土器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、中世瓦、陶器、磁器、青磁、スサ入り焼土塊	
神光寺（蓮池）	寺院跡、散布地、その他の墓	中世期		中世瓦	
向　　出	散布地	中世期			
高　田　南	散布地	中世期		土師器、瓦器、土師質土器	
高　田　南	散布地	不明		瓦器	
高　田　南	散布地	中世期	ピット	縄文土器、弥生土器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、白磁、中世瓦	
自　然　田	散布地	近世期以降		磁器	
自　然　田	散布地	近世期		須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器	
自　然　田	散布地	不明			
鳥　取　南	散布地	不明		土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、近世瓦	
鳥　取　南	散布地	不明			
箱作今池	散布地、生産集落	中世期		瓦器、土師質土器	
箱作今池	散布地、生産集落	中世期		須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、土師質蛸壺、製塩土器	
尾崎範囲外		不明			
鳥取中範囲外		不明			

内畑遺跡09-1区
1トレンチ全景(北より)

内畑遺跡09-1区
2トレンチ土坑2(西より)

下出北遺跡09-1区
トレンチ全景(北より)



下出北遺跡10-1区
トレンチ全景（南より）

神光寺（蓮池）遺跡10-1区
1トレンチ全景（南より）

神光寺（蓮池）遺跡10-1区
2トレンチ全景（南より）

神光寺(蓮池)遺跡10-1区
3トレンチ全景(南より)

神光寺(蓮池)遺跡10-1区
4トレンチ全景(南より)

神光寺(蓮池)遺跡10-1区
5トレンチ全景(南より)

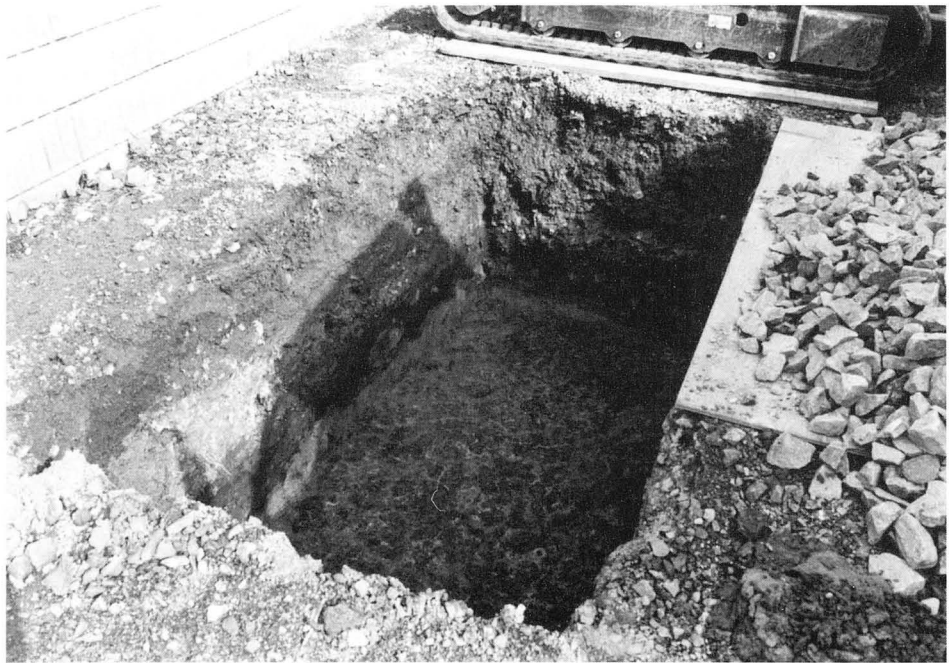
神光寺(蓮池)遺跡10-1区
6トレンチ全景(南より)

神光寺(蓮池)遺跡10-1区
7トレンチ全景(南より)

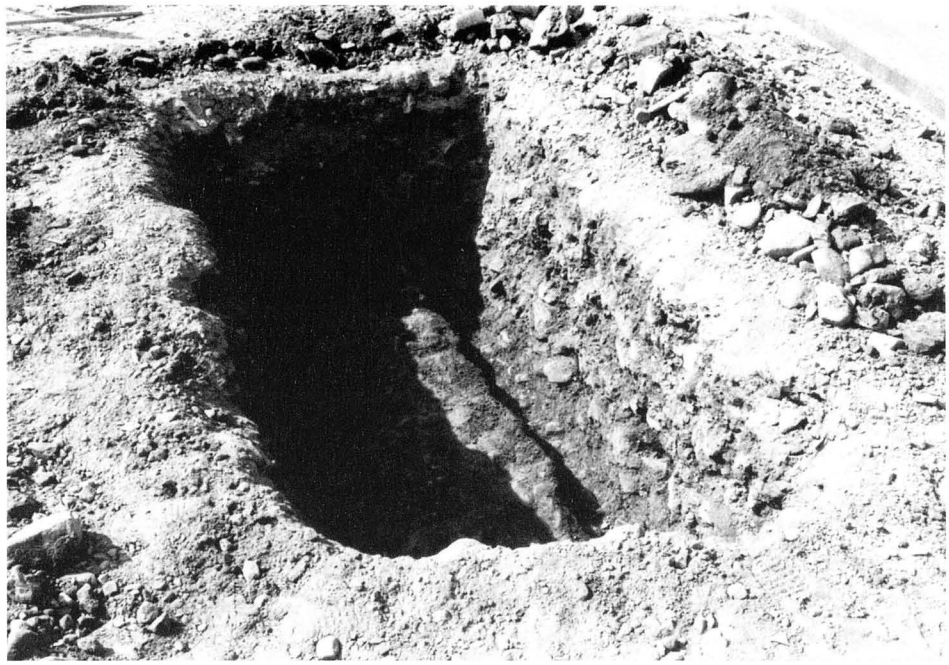
神光寺(蓮池)遺跡10-1区
8トレンチ全景(南より)

神光寺(蓮池)遺跡10-1区
9トレンチ全景(南より)

神光寺(蓮池)遺跡10-1区
10トレンチ全景(南より)



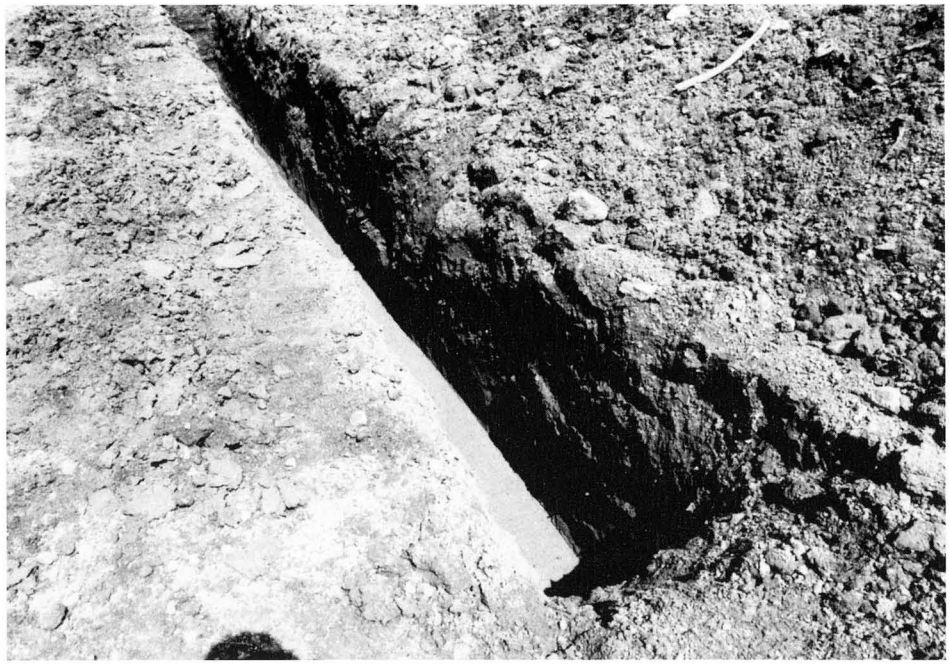
神光寺(蓮池)遺跡10-2区
トレンチ全景(南より)



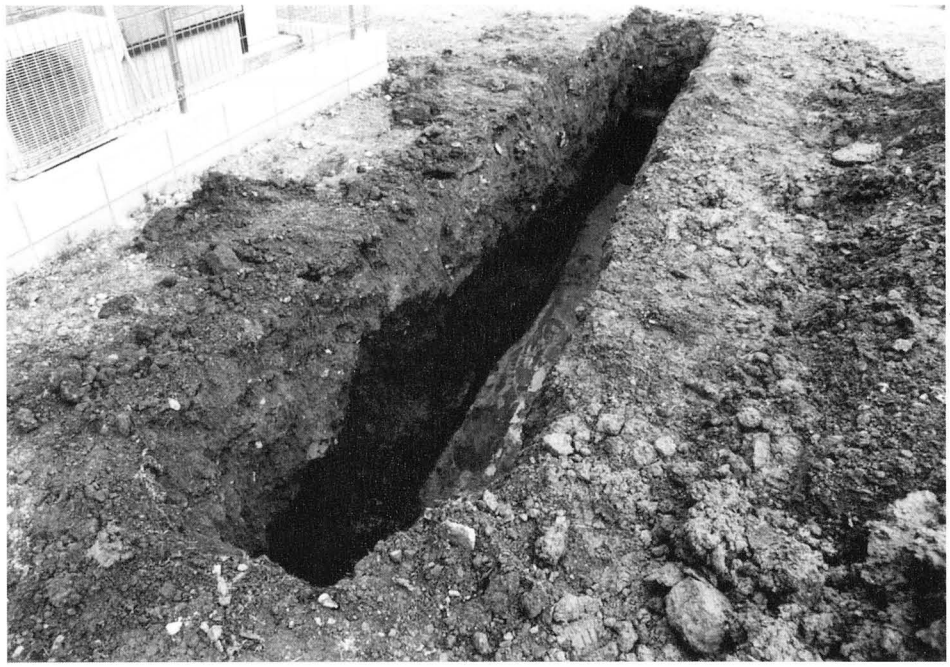
向出遺跡10-1区
トレンチ全景(東より)

高田南遺跡09-4区
1トレンチ全景(南より)

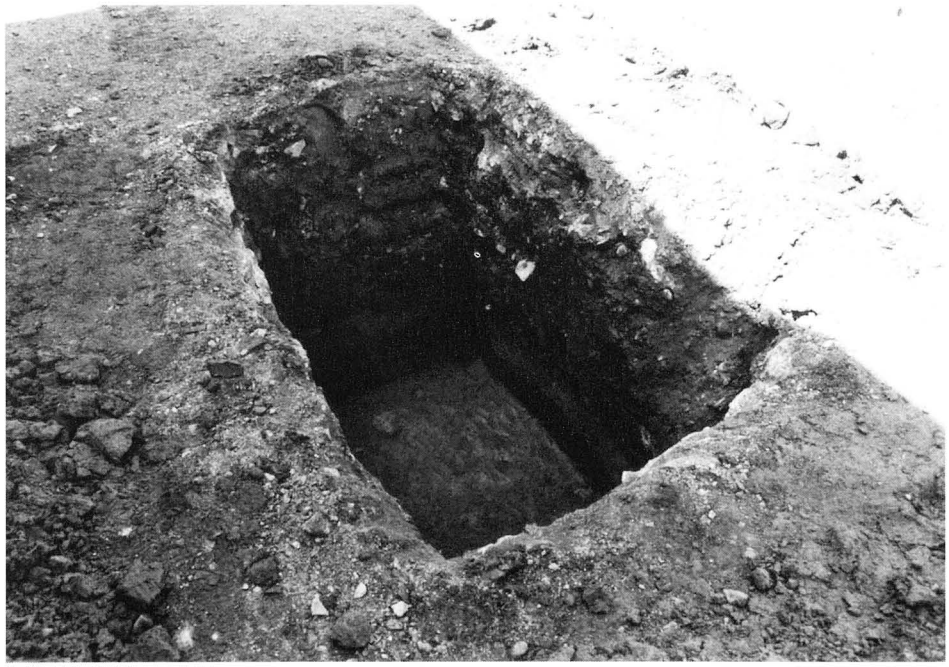
高田南遺跡09-4区
2･3トレンチ全景(南より)



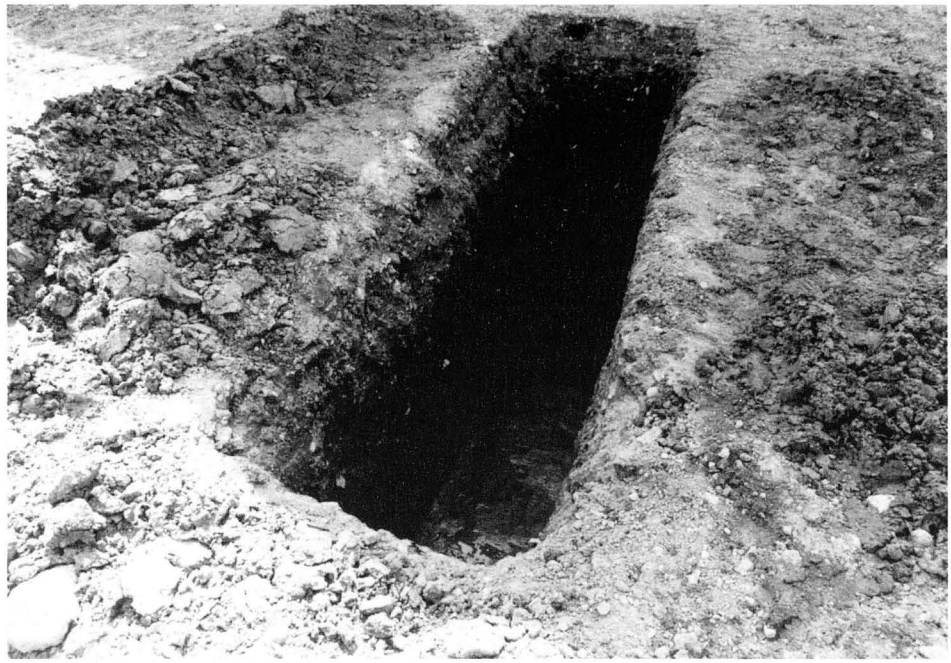
高田南遺跡09-4区
4トレンチ全景(南より)



高田南遺跡09-4区
5トレンチ全景(南より)



高田南遺跡09-4区
6トレンチ全景(東より)



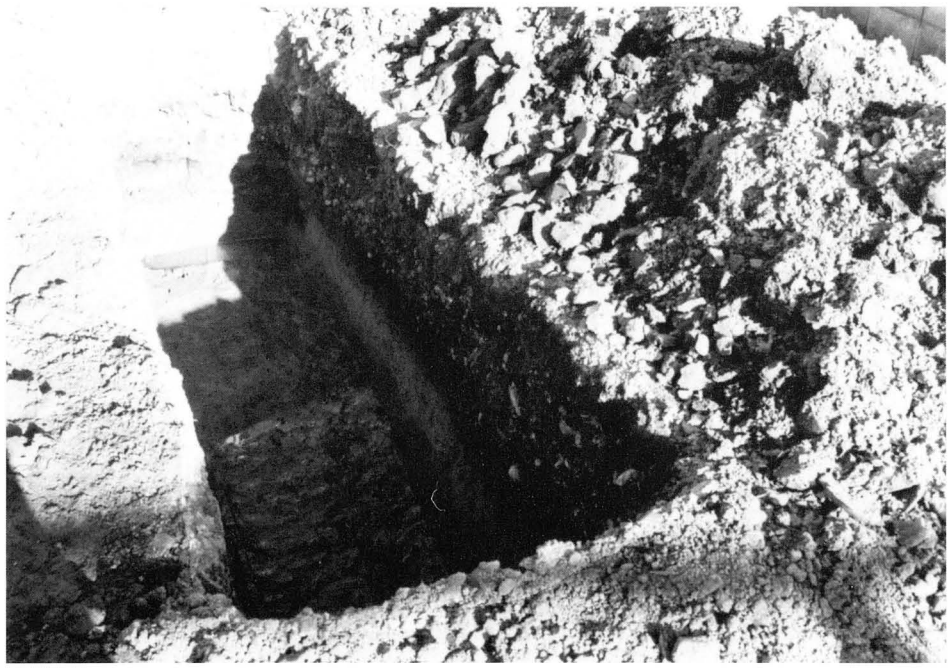
高田南遺跡09-4区
7トレンチ全景（東より）

高田南遺跡10-1区
トレンチ全景（南より）

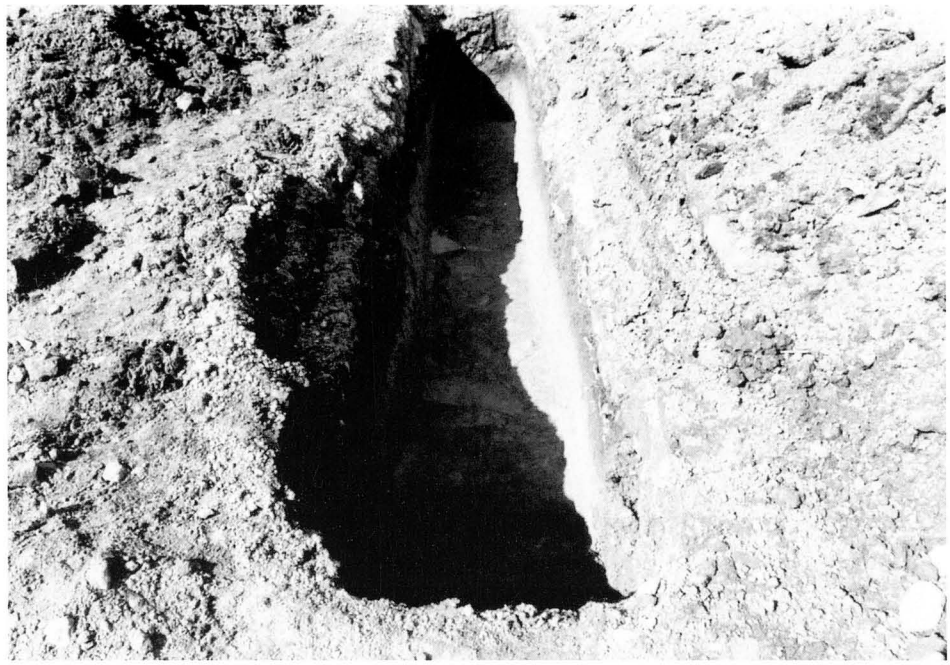
高田南遺跡10-2区
1トレンチ全景（東より）

高田南遺跡10-2区
2トレンチ全景(西より)

高田南遺跡10-2区
3トレンチ全景(南より)



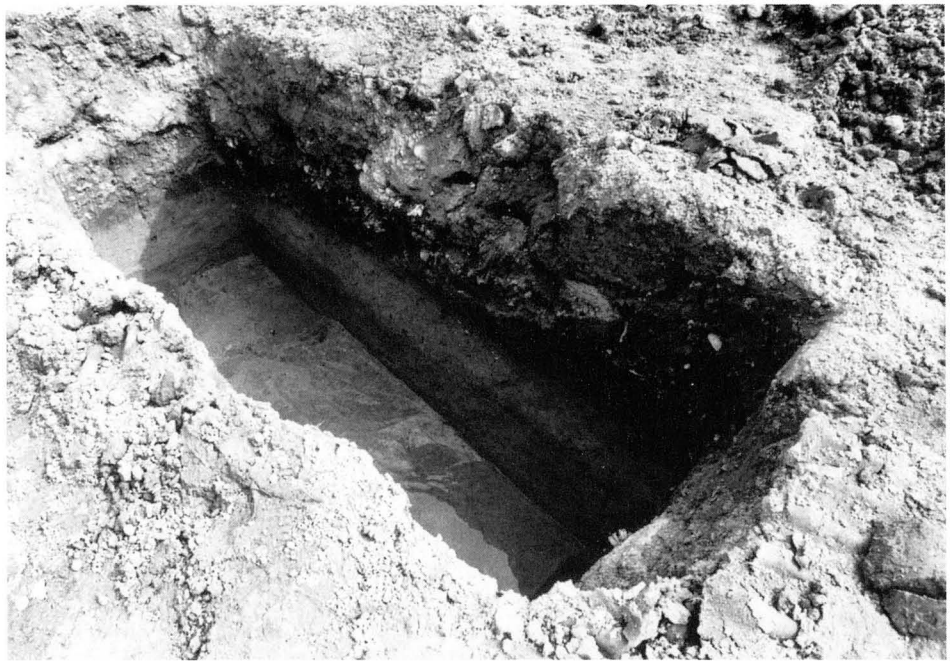
高田南遺跡10-2区
4トレンチ全景(西より)



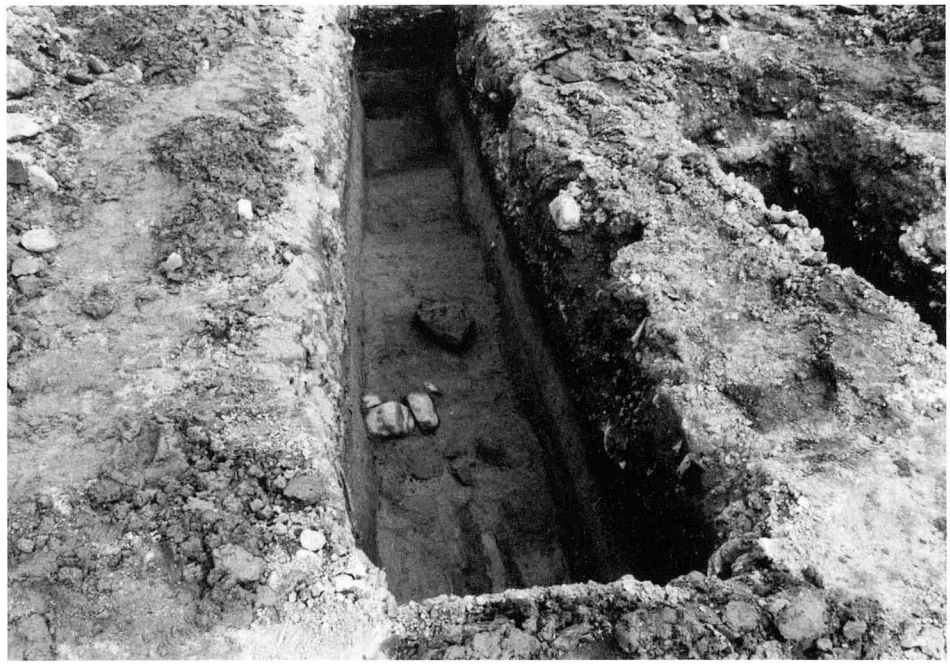
高田南遺跡10-2区
5トレンチ全景(南より)

高田南遺跡10-2区
6トレンチ全景(西より)

高田南遺跡10-2区
7トレンチ全景(西より)



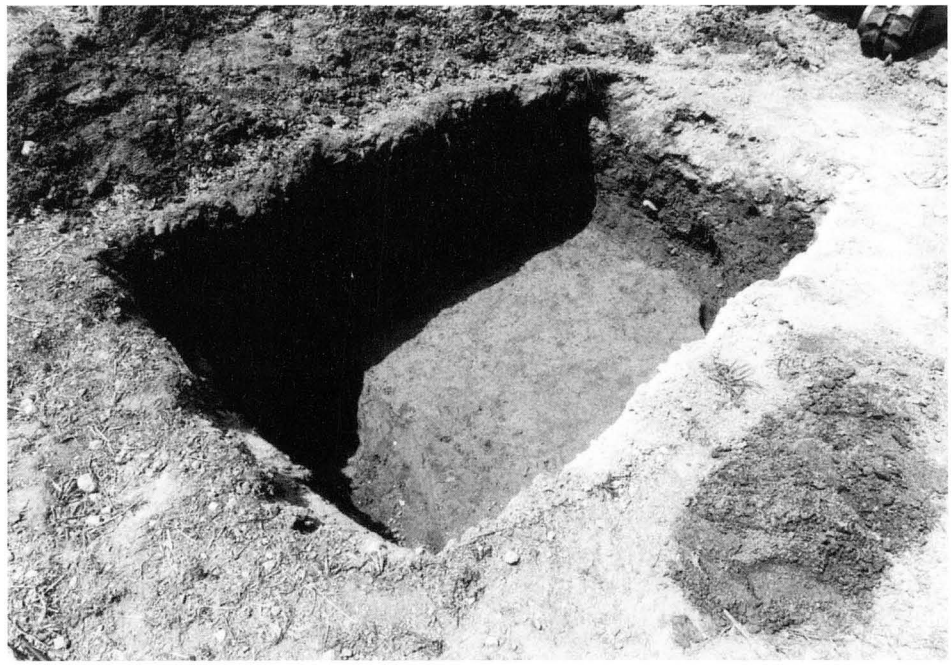
高田南遺跡10-2区
8トレンチ全景(西より)



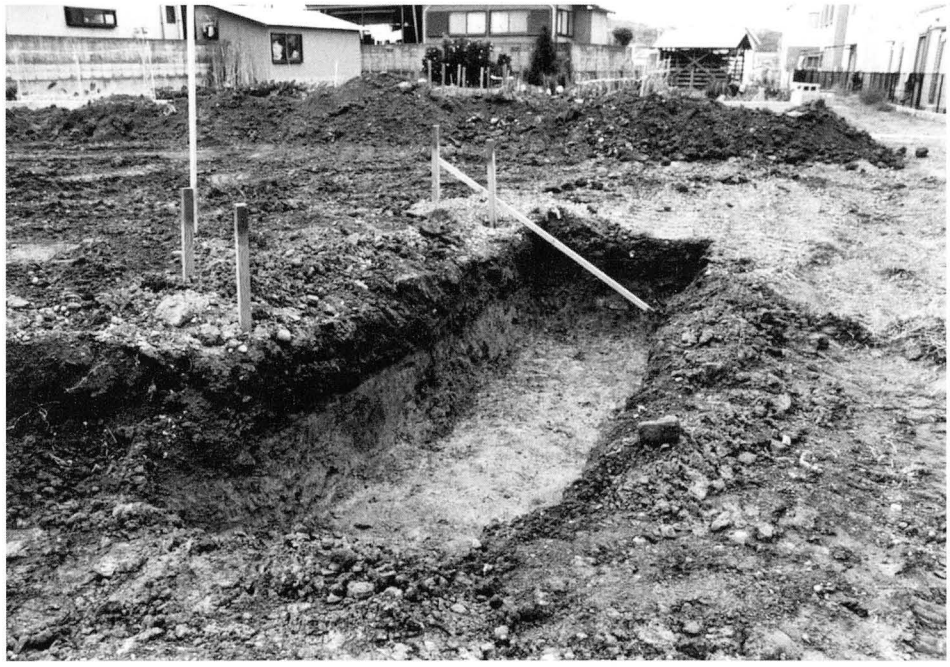
高田南遺跡10-2区
9トレンチ全景(西より)

自然田遺跡09-2区
1トレンチ全景(西より)

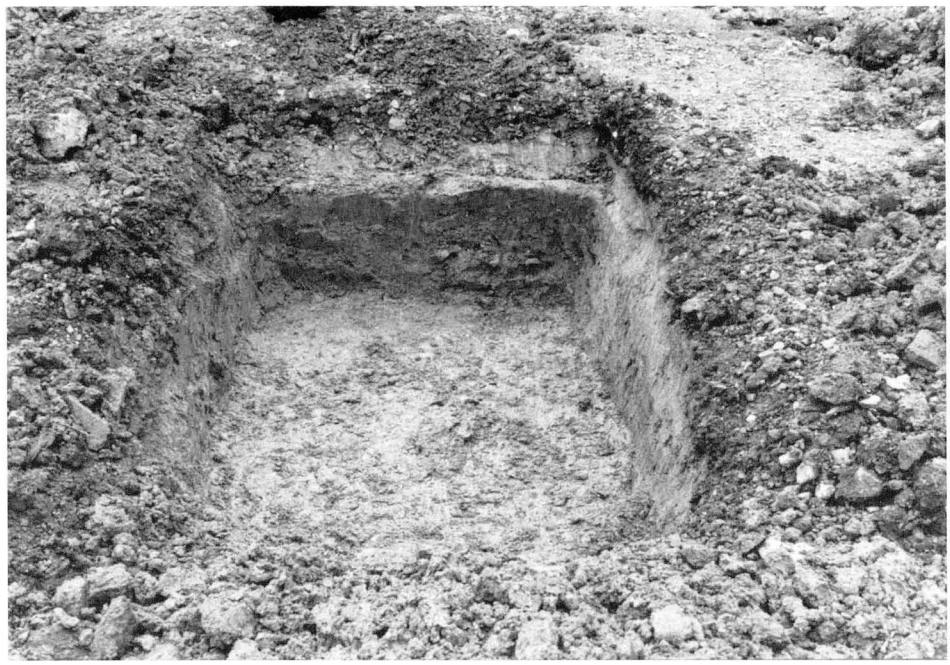
自然田遺跡09-2区
2トレンチ全景(南より)



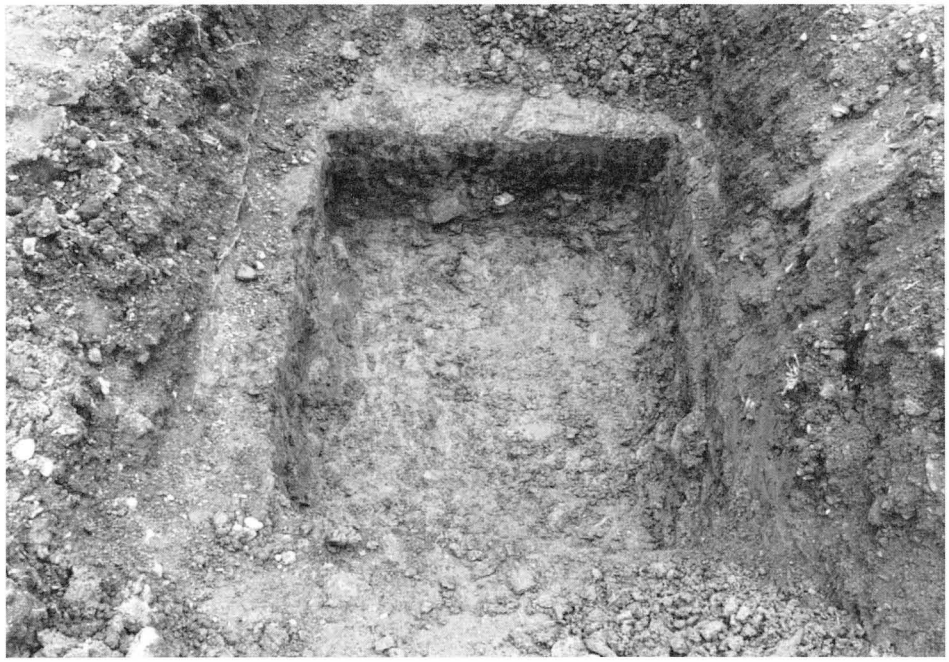
自然田遺跡10-1区
トレンチ全景(南より)



自然田遺跡10-2区
1トレンチ全景(東より)

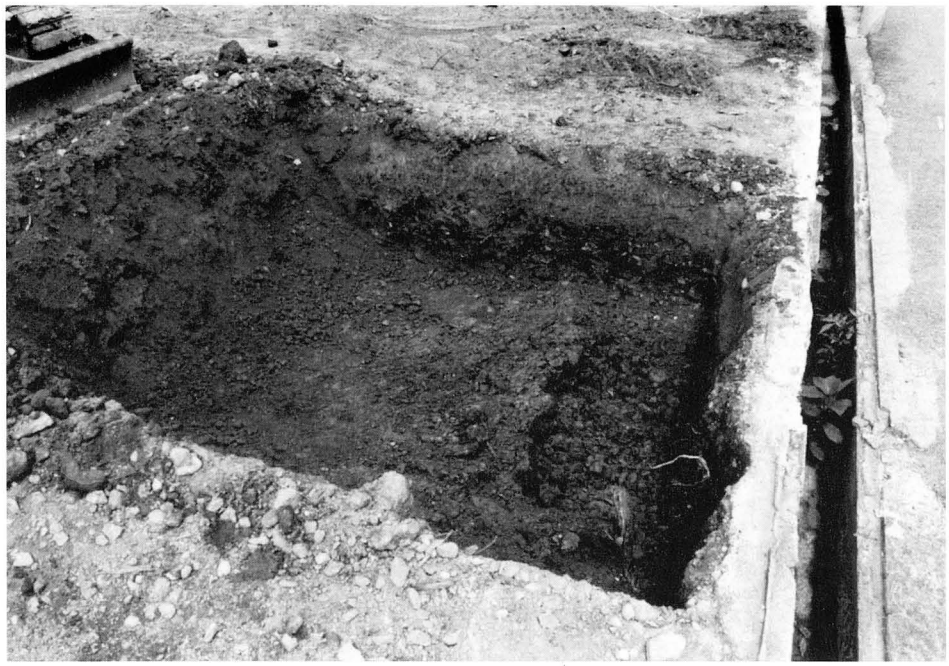


自然田遺跡10-2区
2トレンチ全景(南より)

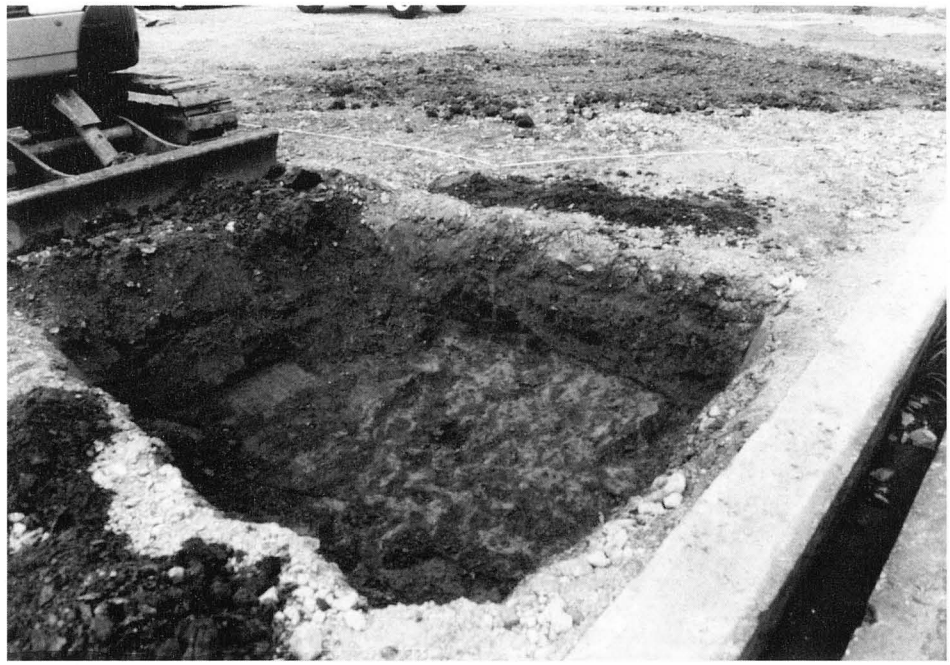


自然田遺跡10-2区
3トレンチ全景(北より)

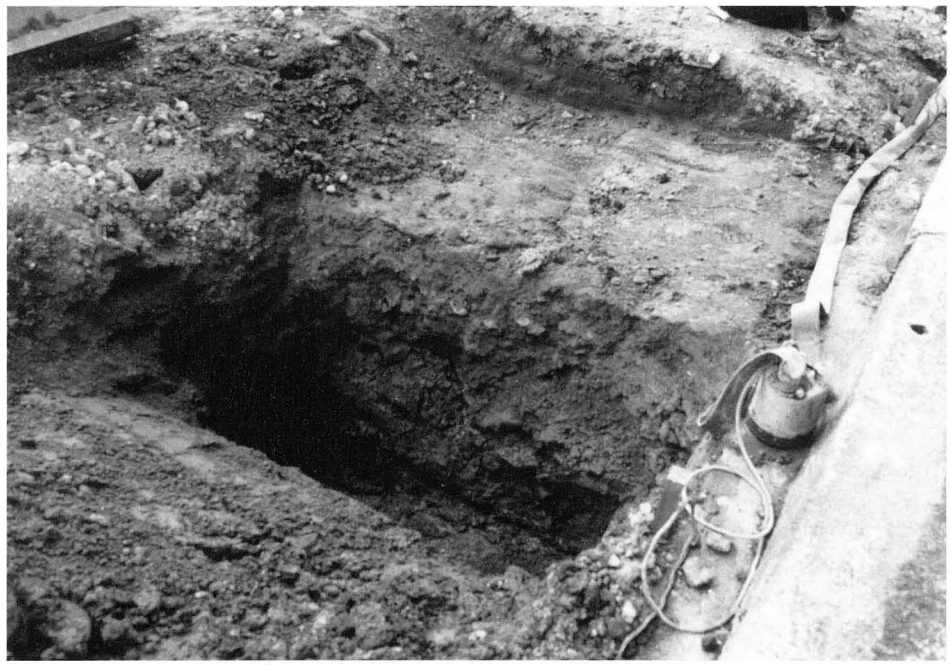
自然田遺跡10-2区
4トレンチ全景(北より)



鳥取南遺跡10-1区
1トレンチ全景(東より)



鳥取南遺跡10-1区
2トレンチ全景(東より)



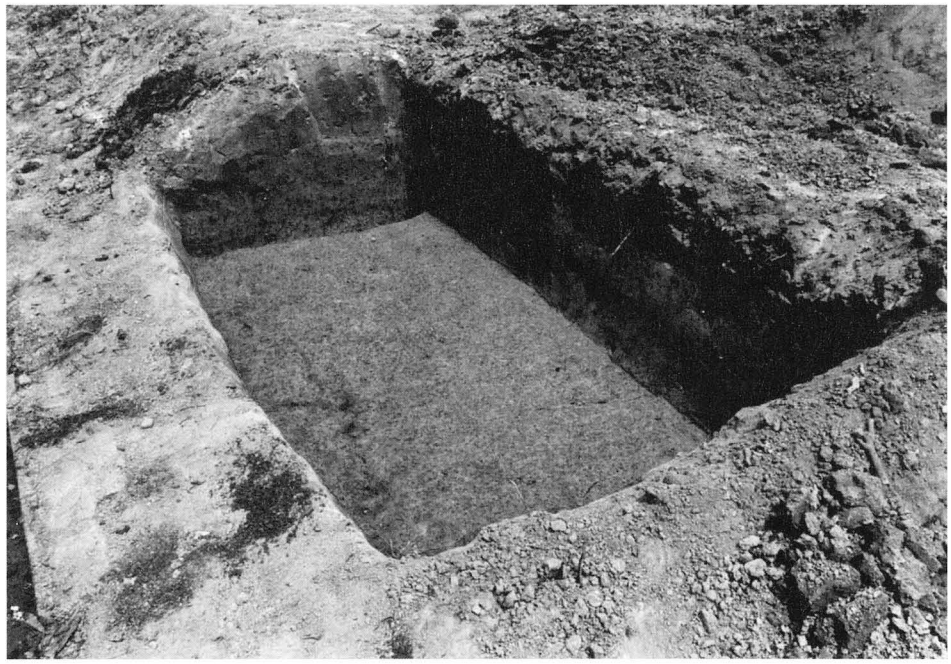
鳥取南遺跡10-1区
3トレンチ全景(東より)

鳥取南遺跡10-1区
4トレンチ全景（北より）

鳥取南遺跡10-2区
トレンチ全景（西より）

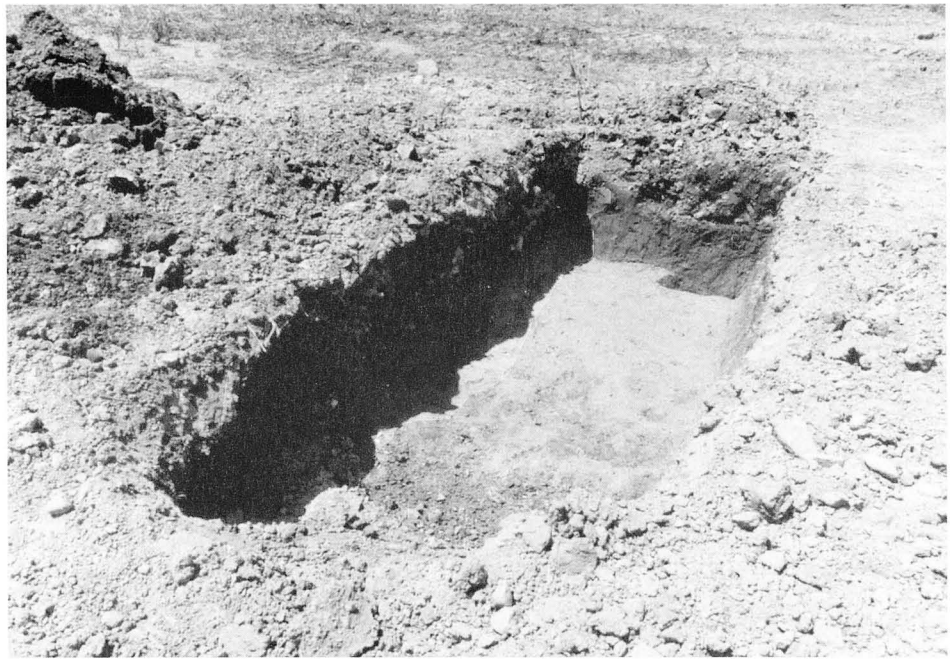
箱作今池遺跡10-1区
1トレンチ全景（東より）

箱作今池遺跡10-1区
2トレンチ全景（東より）

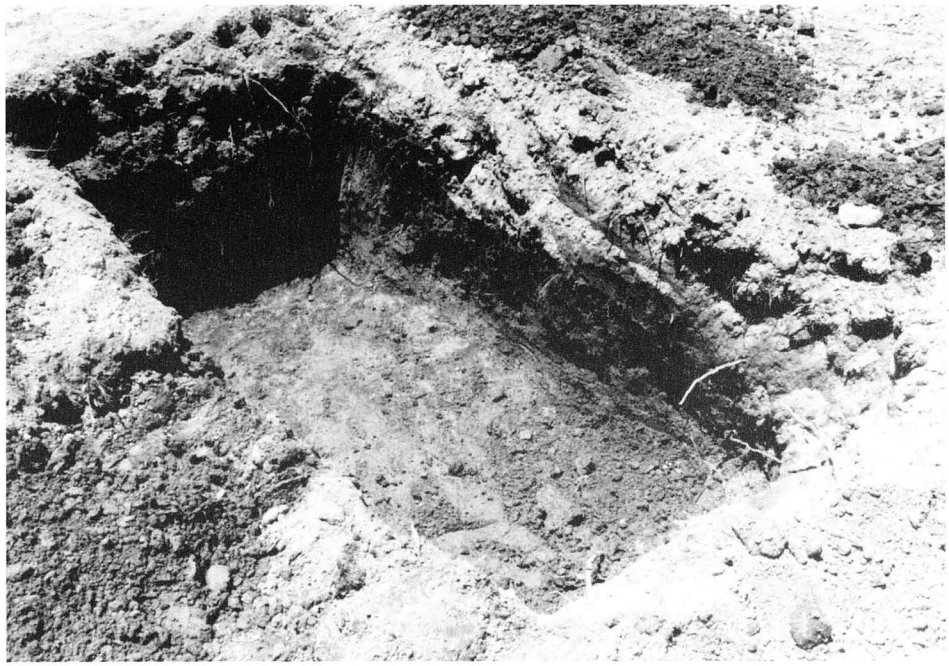


箱作今池遺跡10-2区
トレンチ全景（西より）

尾崎範囲外09-1区
トレンチ全景（西より）

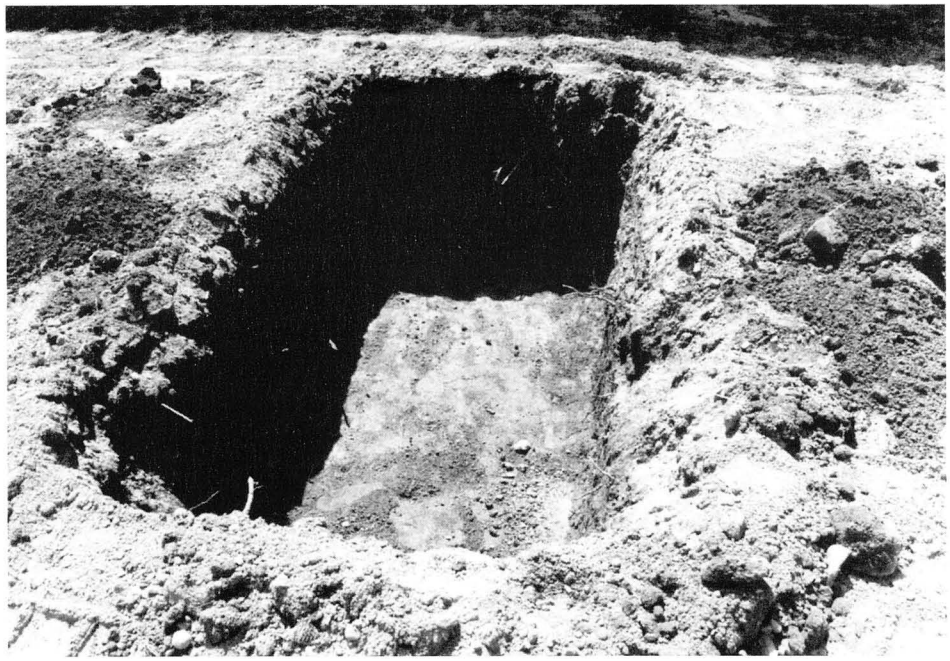


鳥取中範囲外10-1区
1トレンチ全景(南より)



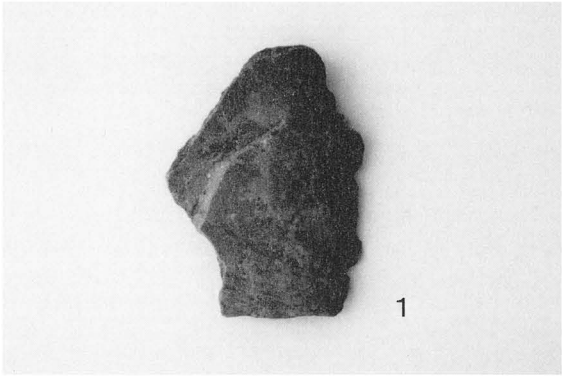
鳥取中範囲外10-1区
2トレンチ全景(北より)

鳥取中範囲外10-1区
3トレンチ全景(南より)

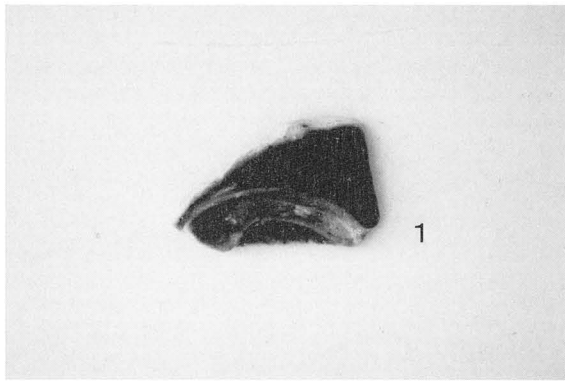


鳥取中範囲外10-1区
4トレンチ全景(東より)

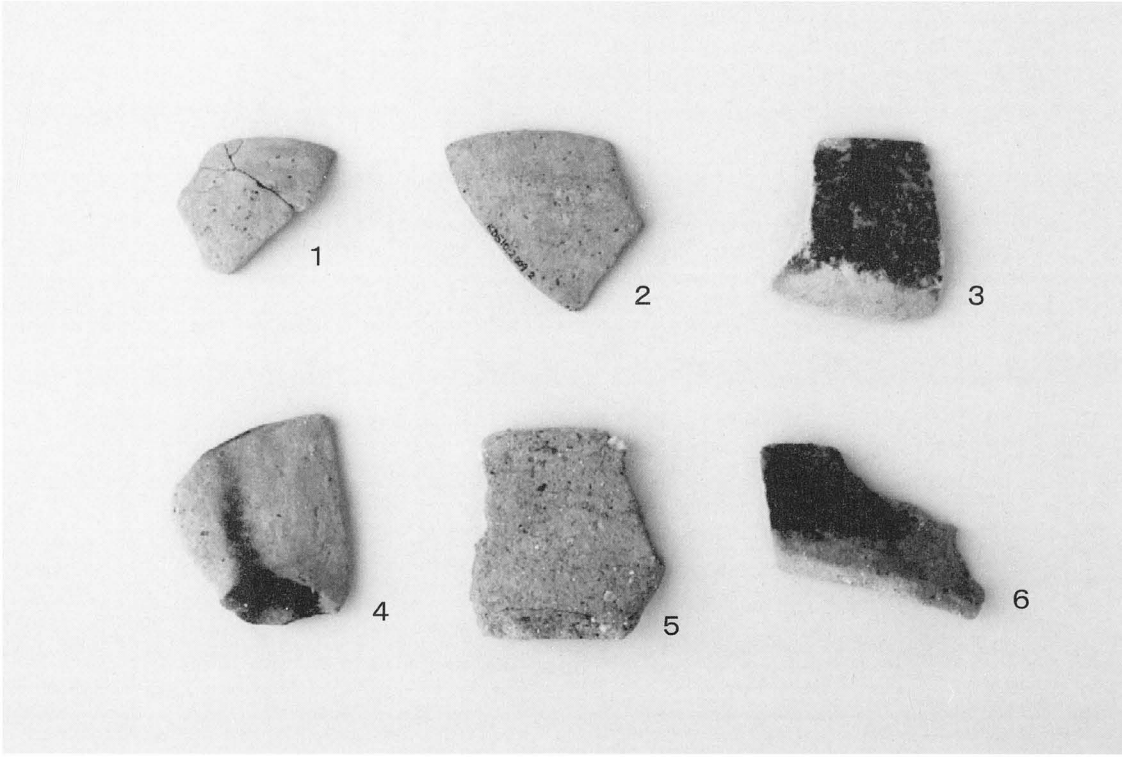
鳥取中範囲外10-1区
5トレンチ全景(南より)



内畑遺跡09-1区　出土遺物

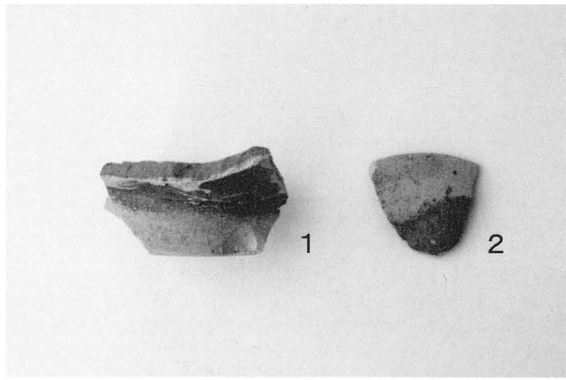


高田南遺跡09-4区　出土遺物



高田南遺跡10-2区　出土遺物

高田南遺跡10-2区　出土遺物



箱作今池遺跡10-2区　出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告 48

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XXⅧ

２０１１年３月

発　行：阪南市教育委員会生涯学習部
生　涯　学　習　推　進　室
大阪府阪南市尾崎町35の１
印刷者：三　和　印　刷　株　式　会　社